



Anchor

アンカー

時のしるし 2

新ローマ法王選出 8

大秦景教流行中国碑の真実 16

本能寺の変とイエズス会 18

日本人がキリスト教を受け入れにくくなった原因 20

我らの大祭司、諸王の王「イエス・キリスト」を仰げ! 23

当面している危機 24

平和をもたらす道 28

驚くべく、くすしく創られた 35

神の愛によるいやし 38

51号
2013年7月

時のしるし

「あなたがたは空の模様を見分けることを知りながら、時のしるしを見分けることができないのか。」 マタイ 16:3

米国が必要としているのは道徳の改革だと提唱！
これらの運動はどこへ向かっていくのだろうか？

オバマ第二期大統領就任式朝食会での異例の警告！

2012年に「ハービンジャー（前ぶれ、先触れ）」という本が、ニューヨークタイムズ社から出版され、全米でベストセラーとなった。

今年の1月21日、オバマ大統領第二期就任式朝食会のスピーカーとして招かれたジョナサン・カーンは、アメリカへのメッセージとして強力な警告のスピーチをした。この人は、メシアニック・ジューと呼ばれるユダヤ人、つまりキリストを救い主と信じるユダヤ人で、ニュージャージー州のある教会の牧師である。

朝食会には、政府要人たち、各国の代表者、いろいろな宗派の指導者らが出席し、そこでなされた彼の演説は強烈な反響を呼んだ。

彼のメッセージの趣旨は、今のアメリカは、古代イスラエルと同じ道を歩いている。しかし、どちらも神の警告を無視して、神に反

抗し、自分の力で国を守ることができると言っている。

古代イスラエルのようにエシュア（イエス・キリスト）の名によって、この国も、神の言葉にもとづいて始まった。学校も神の言葉を教えるために国中に建てられていった。神が何処の国よりも祝福された。しかし、神から離れてきた。

ついに2001年9月11日、敵の攻撃を受けた。それ以来、悔い改めて、神に立ち返るところかますます神から離れていく。リバイバルは起きない。何よりも道徳の復興が優先だと叫んだ。

アメリカはこのまま神のみ旨からはなれたままていくと、古代イスラエルのように、確実に神の刑罰が下るという強力な警告であった。

カーンは、聖書の言葉、「わたしの名をもってとなえられるわたしの民が、もしへりくだり、祈って、わたしの顔を



求め、その悪い道を離れるならば、わたしは天から聞いて、その罪をゆるし、その地をいやす」（歴代志下7:14）を引用し、今、全能の神、エシュア＝イエス・キリストに立ち返るべき時だ！と訴えました。会衆は、その警告のメッセージに応答して立ち上がり、アーメン、ハレルヤ、主を讃美せよという声で騒然となった。



インターネットより：
www.huldahministry.com

カーンの主要なメッセージは、今日、米国は神の直接の裁きの下に置かれており、反逆のゆえに滅びた古代イスラエルの歩んだのと同じ道をたどり始めている、滅びを免れる道は国家としての悔い改めしかないというものです。書中では、預言者かつジャーナリストであるノリエル・カプランとの対話というフィクションの形で、主張の根拠となる兆候、前兆が提示されていきます。米国の未来、行く末を握る鍵が聖書の預言に記されている古代の謎をひも解くことにあるとの興味深い触れ込み、提示された九つの先触れ、2001年9月11日の同時多発テロとイザヤ書9:10-11に記されている古代の謎との密接な関係等々が大衆受けしたのか、大きな反響を呼んだのでした。

カーンは、イザヤ書9:10「れんがが落ちたから、切り石で建て直そう (We will build)。いちじく桑の木が切り倒されたから、杉の木でこれに代えよう」を鍵となる聖句として、この聖句から神の裁きのパターン（もしくは基本型）を引き出し、九つの「先ぶれ」を文字通りアメリカに適用しました。

最初の先ぶれは、神の守りの取り除き。

この神のしるしをイスラエルに適用するなら、守りが取り除かれたことによってイスラエルは、アッシリヤ人の攻撃にさらされることになったのでした。

アメリカに適用するなら、国の安全が取り除かれ、世界貿易センターツインタワー崩壊に象徴されるようなテロリストの攻撃にさら

されることになったのです。

第二の先ぶれはテロリスト。

主は究極的には神と神の民に反逆するアッシリヤ人を討たれますが、イスラエルの背信の間は、むしろアッシリヤがイスラエルを撃つことを許されました。ショック、恐怖、暴虐、脅威をもたらす敵として描かれているアッシリヤはまさに、標的を組織的に撲滅しようとはかる「テロリスト」を象徴しているのです。

第三は、「落ちた」「れんが」。

イスラエルに関して言えば、れんがは町の城壁を築くために用いられ、敵の攻撃後は修復が必要でした。前述のカーンによれば、イザヤ書9:10「れんがが落ちたから、切り石で建て直そう。アメリカにあてはまるのです。

フルダ・ミニストリー 平成
24年9月月報

世界貿易センタービル崩壊時に、まさに大量のれんがが崩れ落ちたのでした。

第四は塔。

イスラエルが破壊された町を再建すると豪語したとき、それは神に対する挑戦でした。アメリカの指導者たちが崩壊したツインタワーを再建すると明言したとき、誇り高く傲慢にも自らの力で再建を誓う、同じ挑戦の霊が働いていたのでした。カーンは、自らの主張をさらに裏づけるため、「切り石

で建て直そう」がずばり「塔を建てよう」と訳されている七十人訳ギリシャ語旧約聖書 (LXX) を引用しています。

第五は「切り石」。

切り石とは岩から切り出され、建造用に整えられたブロックのことで、イスラエルはアッシリヤに攻撃された後、山から切り出した石を運び込み、破壊されたもろいれんがにとって代えたのでした。同じように、テロの爆心地に運ばれた二十トンの巨大なブロックは「自由の石」と呼ばれ、荘厳な儀式を通して、アメリカの新しい力と確信を象徴する再建の岩盤、隅のかしら石とされたのでした。



第六はいちじく桑の木。

中東ではどこにでもあるこの木は、米国では生長しない類ですが、テロ攻撃の爆心地のすぐ側で、ツインタワー崩壊に伴って落ちたがれきで倒された木がありました。そのプラタナスの木はまさに中東の「いちじく桑」の木に分類されるもので、英語版の「いちじく桑」だったのでした。

第七は杉の木。

よくレバノン杉と訳されるこのヘブル語は、常緑の針葉樹の中でも松科の木とみなすのが一番ふさ

わしいようで、弱い木に代えて強い木を植えることがこの預言の趣旨です。ニューヨークの人たちは、樹齢六十年の倒れたプラタナスに代えて、同じ場所に「希望の木」と称して松科の木を植えたのでしたが、まさかイザヤの預言を成就することになるうとは、考えもしなかったのです。

第八は首都で宣言された誓い。

大惨事後、民の指導者たちはテロリストの暴虐に屈しない挑戦の公宣言をした。2003年11月に、倒れたいちじく桑の木の代わりに、杉（松）の木が地中に植えられ、2004年の7月には、落ちたれんがに代えて、二十トンの花崗岩が爆心地の床にクレーン車で下ろされたことにより、2004年の夏までに、古代イスラエルの預言に言及されているすべてのものが奇しくも爆心地に積み下ろされたのです。かくして、アメリカ同時多発テロ事件から3年目の2004年9月11日には、当時アメリカの副大統領候補のジョン・エドワーズの口を通して、ワシントンD.C.で、このイザヤ書の箇所が公に銘記されたのです。

第九、最後の先ぶれは預言。

2001年の同時多発テロ事件の翌日に、米国州議会、上院の多数党総務がやはりイザヤ書9:10を引用し、最後に「私たちはそうしよう」と締めくくったことは、本人の意図に関わらず、まさに預言の言葉となり、上述したように三年後には、その宣言通りのことが現実になったのです。

イスラエルの掟では、法的に出來事が打ちたてられるには二人以上の証人が要求されますが、図らずも二人がイザヤの預言を引用し、アメリカが引き続き神に挑戦することを宣言し、その道を歩み続けていると、ジョナサン・カーンは解釈しているのです。

以下の解説のように、イザヤ書のこの聖句は紀元前8世紀の神を捨てた北イスラエル王国の墮落ぶりを描いたもので、直接にはイスラエルに向けられたものです。しかし、同時に、すべての人々に対して、神が警告として送られる自然界、社会におけるしるしを見て神の御旨を知り、応えなければならぬということを見せているものとして普遍的に捉えることのできるメッセージでもあるのです。

[(1) 虚勢に対する裁き イザヤ書 9:8~12「切り石」(10節)は豪邸を建てるのに用いられる贅沢な建築資材であり(アモス書5:11)、「杉の木」(10節)もカナン一帯(今日のパレスチナ)ではレバノンの杉に代表されるように、最も貴重な木材(列王記第一7:2,3)でした。当時イスラエルの各地で起こり始めていた「れんがが落ち(る)」「木が切り倒され(る)」(10節)という現象に象徴されているのは、神が天災、人災を通して民に警告のメッセージを送られたということです。民は落ちたり、倒れたりする災い、すなわち神からのしるしが暗示するものを悟って、悔い改めへと促されるべきであったのですが、反対にそのような災いを一笑に付し、古いものが壊れてちょうどよかった、今度はもっと豪華なものに建て替えようと虚勢で対処したのです。そのようなイスラエルの民(エフライム、

サマリヤ)の様子も10節に風刺されています。民の思い上り、現実逃避の姿勢をイザヤは鋭く捉えたのです。

実際、紀元前732年にシリアの首都ダマスコがアッシリヤに征服されると、シリアはじめ隣国のイスラエルに対するアッシリヤの風当たりはますます強まったのです。東からは存命が危なくなった同盟国のシリア、西からは旧来の敵ペリシテ、しかもそれらの国々の背後には大国アッシリヤと、圧力は強くなる一方で、おごり高ぶったイスラエルはすでに逃げ場を失った獲物同然に追い詰められたのです。悔い改めの心のない民に待っているのは神の裁きのみです。]

フルダ・K・伊藤著
「一人で学べるイザヤ書」p55-56から抜粋

神の裁きは国家の最も神聖な場所を撃つことで始まると信じるジョナサン・カーンは、清教徒が最初に上陸し、神に奉献した地がまさにテロ爆心地の隣接地であったこと、米国は初代大統領ジョージ・ワシントンによって神に奉献された国であることを強調していますが、ジョージ・ワシントンがフリーメイソンの会員であり、また、ニューヨーク州の最初の首相で、ニューヨーク・フリーメイソンの最高名マスターであったロバート・リビングストンが作成した大統領就任宣誓によって、フリーメイソン主義の聖書に手を置いて儀式が行われたことは、全く触れられていないのです。米国が拠り所にした神が、聖書の証しする神ヤーウェでなければ、イザヤの預

言に基づいた物語の展開自体に矛盾があることはいうまでもありません。

そして、近年の大統領は、『建て直そう (We will build)』という言葉をもって国を建てなおそうと繰り返し唱えているといいます。

アメリカは建国以来かつてみない道徳低下に陥っている。道徳のリバイバル希求に誰がどうこたえるだろうか？

20世紀の大伝道者、ビリー・グラハムを覚えてもらいたい。彼はヨハネ・パウロ2世のことを「世界の道徳の指導者」と讃えた。

しかし、アメリカは確実に破滅に向かっている。かつて大敵であったローマ法王教と親友となり、神の律法を踏みにじり、日曜休業令を発布し強要する時「国家的破滅にいたる」であろう。(黙示録13章参照、「前途の危機」p13参照)

「道徳なき経済は犯罪であり、経済なき道徳は寝言である。」(二宮尊徳?)

オバマ大統領は、その朝食会には出席せず、数時間後に行われる就任演説の準備をしていたらしい。

歴代大統領で初めて同性婚支持、オバマ2期目就任演説 (CNN)

インターネットより：<http://news.livedoor.com/article/detail/7351946/>

オバマ大統領は1月21日、ワシントンで開かれた2期目の就任式で演説を行いました。実は今回、ニューヨーク・タイムズなど欧米



の代表紙が大きく取り上げた2期目の重要政策の内、日本の報道機関が取り上げないものがありました。同性婚です。

日本の大手メディアである、朝日新聞や読売新聞などの全国紙を一読したかぎり、まったく報道されていませんでした。ともすれば、1期目の重要課題がほぼ踏襲されるという印象しか受けません。このように世界的なイベントである米国の大統領就任式においてさえ、「同性婚」というテーマに関しては日本の報道機関はまったく無視しました。なぜこのような事が起こるのでしょう？



日本の状況に関しては次回にリポートする事にして、まずオバマの新政策が日本以外の国で注目される要因を、世界各国の状況を報

告しながら明らかにしたいと思えます。

オバマは「私たちの旅は同性愛者が法の下で平等な扱いを受けるまで終わらない」と、歴代大統領の就任演説で初めてとされる同性愛にも言及。「戦争の10年が終わりつつある。経済も回復し始めた」として、この4年で米国が危機を脱し、未来へ一歩を踏み出す好機が来たと宣言した。

同性愛牧師を監督に選出：米国最大のルター派教会

アメリカ福音ルター派教会 (Evangelical Lutheran Church in America: ELCA) は、5月31日 (米国時間) にカリフォルニア州ウッドランドヒルズで開かれた教会会議で、南西カリフォルニア教会の地域監督 (Bishop: カトリック教会の司教に相当) としてガイ・アーウィン牧師を選出した。

これによりアーウィン氏は、この宗派における地域監督および監督65名のうちの1人になるが、同時に、同宗派で初めて公式に選出された同性愛者の地域監督になる。

[翻訳注: アメリカ福音ルター派教会は、教会員数約410万人で、米国最大のルター派教会。2009年の全体総会時の決議によって、

ゲイとレズビアン牧師任職を可能にしたため、米国で最もリベラルなルター派教会と見なされている。この決定に抗議した保守派はELCAから離脱し、別宗派「北米ルター派教会」(NALC)を創設した]

NBCとウォール・ストリート・ジャーナルがおこなった統計調査で、米国人の53パーセントが同性婚に賛成で、10人中8人に同性愛者の知人または同僚がいると回答したことがわかりました。

<http://d.hatena.ne.jp/iyakichi/20130413/p3>

米国：同性同士の世帯、10年間に80%増加—婚姻合法化が背景

更新日時：2011/09/28 14:56 JST

9月28日（ブルームバーグ）：米国で同性同士の世帯数が過去10年間に約80%増加した。この間に州レベルで同性婚を法的に認める動きが進んだことが背景だ。

米国勢調査局は27日、同性同士の世帯数が

2010年に64万6464世帯と、2000年の35万8390世帯から増加したと発表。初期調査ではこの数を過大に集計していたという。

同性世帯数のうち、13万1729世帯が同性婚、51万4735世帯は婚姻関係がないという。2000年には同性婚が合法化されていなかったため、国勢調査でこうした統計が発表されるのは初めて。

世界で同性婚への動きがますますエスカレートしていることを伝えている。

2013.5.11 発信地：ワシントン D.C/ 米国

頻発する世界中の暴動

<http://diamond.jp/articles/-/13627>

先週、ロンドンでの暴動が大きく報道されました。よく考えると今年は、エジプトなどの中東の独裁国家で暴動が起き、欧州の都市では財政支出削減に反対するデモが頻発し、イスラエルでも8月に入って生活費高騰に抗議する史上最大のデモが発生し極めつけでロンドンでも暴動が起きるなど、暴動やデモが頻発しています。ある意味、米国で増税に強く反対する保守系のティーパーティー（茶会）も、静かなデモと言えるかもしれません。

フリードマンの主張：

このように今年に入って暴動やデモが世界中で頻発する本質的な原因は何でしょうか。米国ニューヨーク・タイムズのコラムニストであるトーマス・フリードマンが興味深い主張をしています。

フリードマンの主張を要約しますと、グローバル化とIT革命の進展がその背景にあります。

グローバル化とIT革命の進展により、世界は“connected”（接続）から“hyper-connected”（人、組織、経済、政治、リスクなどの



アーウィン氏は「GLAAD」サイトで次のように述べている。

「私が選ばれたことを、性的少数者とアメリカ先住民の両方にとって重要な節目であると考えの人が大勢いるであろうことは承知しており、私は自分が、その両方のコミュニティにとって肯定的なイメージの代表者になれるよう祈っている。かつて私は、自分がELCAで牧師として奉仕することは絶対にできないと考えていた。われわれの教会は現在、LGBTの人々が宗派にもたらずことができる、神から与えられた才能や能力を認めている。」

[翻訳注：LGBTとは、女性同性愛者（レズビアン、Lesbian）、男性同性愛者（ゲイ、Gay）、両性愛者（バイセクシュアル、Bisexuality）、そして性転換者・異性装同性愛者など（トランスジェンダー、Transgender）の人々をまとめて呼称する頭字語。最近では、国際連合をはじめとした国際機関においても、性的指向や性自認にまつわる人権問題を扱う公文書でこの言葉が用いられている]



すべてが、境界線を越えて密接につながった世界)と進化しました。それに伴って、これまで先進国で中流階級と言われる人々やマイノリティが担ってきた仕事は、機械、コンピュータ、ロボット、途上国の能力ある労働者に取って代わられるようになりました。

それは、先進国である程度の生活レベルを維持するためには、個人はもっと生産性を高めたり、高い技能を身につけなければならなくなったことを意味します。いわゆるルーチン・ワークと言われるような仕事ほど先進国では減りつつあり、格差の拡大や就業機会の減少など、かつての中流階級を巡る環境は厳しくなっているのです。

しかも、政府は、かつては社会福祉などの財政支出を増大させることで中流階級やマイノリティの不満を抑えることができましたが、今や巨額の財政赤字を抱える中で、逆に財政支出を削減せざるを得なくなり、それらの人々の窮状を打開することが難しくなりました。

当然、中流階級やマイノリティの怒りは増大する一方となります。しかも、グローバリゼーションとIT革命は、同時にそうした人々の力を大きく強め(“super-empower”)ました。SNSやスマートフォンが普及したことで、一般庶民でも環境変化への怒りを広く世間に訴えられる位に発言力を持ち、社会の秩序や伝統的な権威に挑むことも可能となったのです。デモの波及・拡大などの“庶民の怒りのグローバル化”も進みつつあります。

また、エジプトで！

エジプト第2の都市アレクサンドリアで2013年6月28日、モルシ大統領の退陣を求めるデモ隊と大統領支持派が街頭で衝突し、地元メディアによると、フォトジャーナリストの米国人男性ら少なくとも2人が死亡、約100人が負傷した。写真は、アレクサンドリアで与党事務所に火を放つ反大統領派のデモ隊。【AFP＝時事】

これもまた、グローバリゼーション、すなわち、世界統一政府への希求であろう。



アメリカのジョー・バイデン副大統領は、2013年4月5日、米国輸出入銀行で開かれた会議で、「我々の目前の課題は新世界秩序の創造である」と公式に発言した。

ヤコブ 5:1-6 の預言の成就！

宇野正美氏は、世界統一政府陰謀者たちは、世界経済恐慌を起こして一気に世界政府を構築することを言っている。国際時事問題と、本人がその核と見なす「ユダヤ問題」を専門にした講演者兼著述家。「株式会社リバティ情報研究所」及び「中東問題研究センター」の創設者。一般には反ユダヤ主義の陰謀論者として知られる。「国際時事講演会」を日本の主要都市で毎月開催。彼は「ユダヤが解ると世界が見えてくる」と言っている。確かに、フリーメイソン、イルミナティはユダヤが関わっている。しかし、最高秘密結社のイエズス会が関わっているローマ法王権を聖書から解かないと世界は見えてこないと私は言いたい。



彼もイエズス会員といわれている。

米1ドル紙幣に使われている「新世界秩序」という言葉は、もはや単なる陰謀論ではない。聖書が確実に預言している。巷には、フリーメイソン、イルミナチ秘密結社、国際ユダヤ、ロスチャイルド・ロックフェラー、イスラム等々といういかなる世界支配陰謀論があふれている。しかし、聖書の預言から結論を言うと、それは、世界最小の国、法王を頂点とするバチカン(ローマ・カトリック)と米国とのコンビでなされる。

新ローマ法王選出

異例なベネディクト 16 世 異例な新法王の選出！

2013 年 3 月 13 日

金城 重博



アルゼンチンのベルゴリオ枢機卿、新法王に選出

[バチカン市 13日 ロイター] 新たなローマ法王を決める 選挙（コンクラーベ）は 13 日の投票で、アルゼンチンの ホルヘ・マリオ・ベルゴリオ枢機卿を新法王に選出した。法王の新たな名前は「フランチェスコ 1 世」。発表に先立ち、バチカンのシスティーナ礼拝堂の煙突からは「法王選出」を示す白い煙が上がった。

異例な両法王の祈祷会、食事会！

これらは何を意味するのだろうか？今後、どんな展開があるか、特に預言とバチカンとアメリカの動きをウォッチしていかなければならない。

今まで、イエズス会は、法王に命をかけて仕え、法王至上権を確立するためにあると思われてきた。そして白い法王の後ろで動いていた Black Pope — 黒い法王と言われてきた。しかしここきて、その黒い法王が法王の座に就いたのはどういう意味があるのだろうか？

元イエズス会司祭のマラカイ・マーティン氏によると、イエズス会総長がローマ法王に命令する立場にあるという。

ここで、「平和の使者」「最高の道徳的指導者」と称されている法王とはどういう地位、権威を持っているのか、復習したい。

「いと高き者に適して言葉を出し」(ダニエル 7:25)、「頭には神を汚す名がついて」(黙 13:1) といった冒涇については、聖書で明らかにされている。

冒涇とは：聖書によると①神であると主張すること、②人間の罪を赦す権威を主張することである。

法王は何と言っているか、少しばかり挙げる：

・「我々はこの地上において全能の神の位置を占めている」法王レオ 13 世。



イエズス会初のローマ法王

の退位、600年ぶり！

- ローマ皇帝は、Pontifex Maximus（ポンティフェクス・マクシムス）最高神祇官（さいこうじんぎかん）と呼ばせて絶大の権威を持っていた。

それはローマ教皇の称号ともなっている。

- 「法王は余りにも偉大な尊厳を持ち、また非常な榮譽のうちにあるため、彼は単なる人間でなく、神のようであり、また神の代理人である。」



・「今より法王は、天と地と地獄の王として三重の王冠をかぶる。」

・「法王は地上における神であり、キリストの忠実な者たちに対する唯一の権威であり、王の王であり、完全な権威を持っており、地上でなく、御国においても全能の神によって管理をゆだねられてきたのである。」

- 「法王の権威は、人間からではなく、神からのものであるゆえに、彼は神聖な律法を修正することができる。」 Lucius Ferraris, Prompts Bibliotheca Canonica, Vol.VI, p 442

※キリスト教の主は何と言われただろうか？「わたしが律法や預言者を廃すためにきた、と思ってはならない。廃するためではなく、成就するためにきたのである。よく言うておく。天地が滅び行くまでは、律法の一点、一画もすることはなく、ことごとく全うされるのである」（マタイ 5:17-18）。

見ていただきたい！法王の座っている「**大きな白い御座**」を！

我々の主なる神は、天の座に君臨しておられるのである。

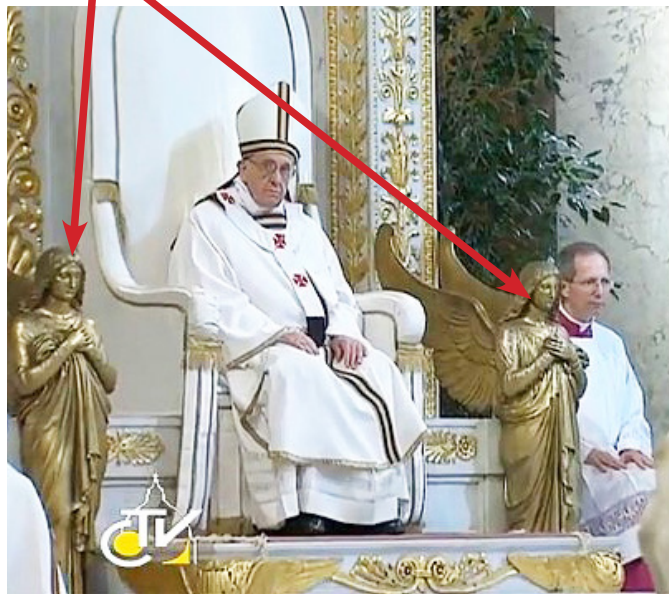
黙示録 20:11（天の光景）「また見ていると、大きな白い御座があり、そこにいますかたがあった。」

イザヤ 37:16「ケルビムの上に座しておられるイス

ラエルの神、万軍の主よ、地のすべての国のうちで、ただあなただけが神でいらせられます。あなたは天と地を造られました」。

第二テサロニケ 2:4「彼は、すべて神と呼ばれたり拝まれたりするものに反抗して立ち上がり、自ら神の宮に座して、自分は神だと宣言する」。

法王の座の両側に立っているのは、人の手で作ったケルビム！



フランシス I 世



ベネディクト 16 世

イザヤ 37:16「ケルビムの上に座しておられるイスラエルの神、万軍の主よ、地のすべての国のうちで、ただあなただけが神でいらせられます。あなたは天と地を造られました」。

日本人の知らない真実一知るべき時が来た！

イエズス会とは？

われわれ日本人は、バチカンという国が距離的にかなり遠く、しかも世界最小国なので、ローマ・カトリック及びイエズス会について、ほとんど無知ではないだろうか？ しかし、聖書によると、この最も小さい国が世界を支配するというのだ。宇野正美氏は「ユダヤが解ると世界が見えてくる」と講演を続けているが、聖書によるとバチカン(ローマ・カトリック)が解ると世界が見えてくる、日本も見えてくると私は言いたい。

誰によって、いつ創設されたか？

<http://ja.wikipedia.org/wiki/>

「ローマ教皇プルス3世は1540年9月27日付で大勅書『Regimini militantis ecclesiae』を發布、ここにイエズス会は修道会として公認されるに至ったのである。ただし、盛式四誓願司祭の定員は60名に制限されていた。翌年の4月19日、ロヨラは初代イエズス会総会長に選出された。1544年3月15日には、イエズス会を再公認するローマ教皇パウルス3世の大勅書『Injunction nobis』が發布され盛式四誓願司祭の定員数制限も解除された。」

高橋裕氏著「イエズス会の世界戦略」p47

ウィキペディアより引用しよう：

「1534年8月15日、イグナチオ・デ・ロヨラとパリ大学の学友だった6名の同志（スペイン出身のフランシスコ・ザビエル、アルフォンソ・サルメロン、ディエゴ・ライネス、ニコラス・ポバディリャ、ポルトガル出身のシモン・ロドリゲス、サヴォイア出身のピエール・ファーヴル）がパリ郊外のモンマルトルの丘の中腹のサン・ドニ聖堂（現在のサクレ・クール聖堂の場所にあったベネディクト女子修道院の一部）に集まり、ミサにあずかって生涯を神にささげる誓いを立てた。この日がイエズス会の創立日とされている。彼らは清貧・貞潔の誓いとともに『エルサレムへの巡礼と同地での奉仕、それが不可能なら教皇の望むところへどこでもゆく』という誓いを立てた。『モンマルトルの誓い』のメンバー（7人）



図2章-1 修道会創立当初のイエズス会員
(1段目左から) ディエゴ・ライネス、フランシスコ・ザビエル、ピエール・ファーヴル、(2段目左から) ニコラス・ポバディリャ、シモン・ロドリゲス、アルフォンソ・サルメロン、(3段目左から) バスカシオ・プロエット、ファン・コドゥリ、クラウディオ・ハイオ、(4段目) ディエゴ・ホセス

ささげる誓いを立てた。この日がイエズス会の創立日とされている。彼らは清貧・貞潔の誓いとともに『エルサレムへの巡礼と同地での奉仕、それが不可能なら教皇の望むところへどこでもゆく』という誓いを立てた。『モンマルトルの誓い』のメンバー（7人）

・イグナチオ・デ・ロヨラ（1491年 - 1556年）

・ピエール・ファーヴル（1506年 - 1546年）

・フランシスコ・ザビエル（1506年 - 1552年）

・ディエゴ・ライネス（1502年 - 1565年）：第2代総長

・アルフォンソ・サルメロン（1515年 - 1585年）

・ニコラス・ポバディリャ（1507年 - 1562年）

・シモン・ロドリゲス（1510年 - 1579年）」

「イエズス会（ラテン語：Societas Iesu）は、キリスト教、カトリック教会の男子修道会。宗教改革以来、イエズス会員は『教皇



フランシスコ・ザビエル

の精鋭部隊』とも呼ばれた。このような軍隊的な呼び名は創立者イグナチオ・デ・ロヨラが修道生活に入る以前に騎士であり、長く軍隊ですごしたことと深い関係がある。現代では六大陸の112カ国で活動する2万人の会員がいる。これはカトリック教会の

男子修道会としては最大のものである。イエズス会員の主な活動は高等教育と研究活動といった教育活動であり、宣教事業や社会正義事業と並んで活動の三本柱となっている。イエズス会の保護者は聖母マリアの数ある称号の一つである『道の聖母 (Madonna Della Strada)』。イエズス会の指導者は終身制で総長とよばれる。

現在の総長はアドルフォ・ニコラス師である。会の総本部はローマにあり、かつて本部がおかれていたジェズ教会 (Chiesa del Gesù) は歴史的建築物となっている。略称は S.J. 中国や古くの日本では『イエス』の漢訳が耶穌であることから耶穌会 (やそかい) とも呼ばれた。」

何のために創設されたか？

イグナティウス・デ・ロヨラ曰く：

「私の意図とするところは、異教の地をことごとく征服することである。」

高橋裕氏著「イエズス会の世界戦略—宗教的情熱の下に隠された、宣教師たちのもう一つの顔—」(p10)。

「イエズス会創設の目的は、すべてはより大いなる神の栄光のためにイエスの伴侶として、神の栄光のために働くことにあった。」 同 p47

「イエズス会の特色は、

第一に上司に対する『絶対的服従』

第二に『戦闘的な集団意志』

第三に『海外布教の重視と実践』

第四に『教育事業の重視』であった。同上 p47-49

彼らは、「聖衣をまとった戦士たち」(p197) と言われている。

「イエズス会の創設が、プロテスタント教会による『宗教改革』に対する、カトリック教会側からの『対抗宗教改革』の産物の一つであったことは贅言(ぜいげん)(むだなこと)を費やすまでもない」 同上 45

つまり、プロテスタント主義を覆すことである。



次に、私が最も信頼している各時代の大争闘からもう一度引用したい。イエズス会については、アンカー 43 号 (イエズス会の日本戦略)、45 号 (世界を操る真の黒幕) にも書いた。

イエズス会の策動 E.G. ホワイト：

「このとき (ジュネーブにおいてファールとカルバンが宗教改革の旗を掲げた時)、改革事業に一大危機が訪れた。ジュネーブに対して法王の破門が宣言され、強国がこぞってジュネーブを威嚇した。これまでしばしば国王や皇帝を屈服させた強力な教権に、この小さい都市がどうして対抗することができようか。世界の偉大な征服者たちの軍隊に、どうして対抗できようか。

プロテスタント主義は、全キリスト教国において、恐るべき敵に脅かされた。改革事業の最初の勝利は過ぎ、ローマはその全滅を期して新たな勢力を奮い起こした。このとき、法王教の全闘士中、最も残酷で無法で強力なイエズス会が創設された。彼らは、世俗のきずなや人間関係から切り離され、人情も理性も良心もいっさいを無視して、彼らの会以外のどんな規則もきずなも認めず、ただ、その権力を伸張することだけを義務とした。キリストの福音は、その信者たちに、危険を冒し、苦難に耐え、寒さ、飢え、労苦、貧困にもめげず、真理の旗をかかげ、拷問も投獄も火刑も恐れない力を与えてきた。この勢力に対抗するために、イエズス会は、その会員を狂信的にさせ、同様の危険に耐えるように、またあらゆる欺瞞の武器をもって真理の力に対抗するようにさせた。彼らは、どんな犯罪を犯しても罪にならず、どんな欺瞞を行なってもかまわず、どんな偽装もわけなくできた。彼らは、一生の間貧困と質素な生活を送ることを誓ったが、その目的とするところは、富と権力の獲得であり、プロテスタント主義をくつが

えし、法王至上権を復興することであった。

彼らは、会の会員として活動するときは聖衣をまとい、牢獄や病院を訪ねて病人や貧者に奉仕し、世俗を捨てたことを公言し、よい働きをしながら巡回されたイエスの清い名を帯びていた。しかし、この潔白な外観のかけに、しばしば、極悪非道な目的が隠されていた。目的は手段を正当化するというのが、会の基本原則であった。この規定によって、虚偽、盗み、偽証、暗殺などは、教会のために役立つならば許されるだけでなく、賞賛すべきものであった。さまざまな偽装のもとに、イエズス会の会員たちは、国政にまで手を伸ばし、国王の顧問の地位について、国家の政策をまとめた。また、人々の様子を探るために、そのしもべとなった。彼らは、王侯、貴族の子弟のための大学を設立し、一般の国民のための学校を建てた。そして、プロテスタントの親の子供たちは、カトリックの儀式を守るように影響された。ローマ・カトリックの礼拝の華麗な様子は、心を混乱させ、想像力を眩惑し魅惑した。こうして子供たちは、彼らの父たちが苦難と血によって得た自由を売り渡してしまった。イエズス会は、ヨーロッパに急速にひろがった。そして、彼らの行ったところは、どこでも法王権が勢力を回復した」（大争闘上 293-294）。

その目的とするところは何であろうか？

「富と権力の獲得であり、プロテスタント主義をくつがえし、法王至上権を復興することであった」（同 294）。

1. 富の獲得
2. 権力の獲得
3. 法王至上権の復興

イエズス会には2面性がることを覚えておきたい：

1. 徹底した善行、奉仕
2. 「最も残酷で無法」「極悪非道な」やり方

世界的ローマ法王至上権一 第二弾世界戦略

ヨーロッパで中世時代に政治、経済、宗教を完全に支配したローマ法王権は、今度は世界支配、すなわち「新世界秩序構築」を狙っていることが聖書の預言にある。

- ① ダニエル 11:40 ~ 45
- ② 黙示録 13 章
- ③ 黙示録 17 章

大争闘下 321 頁を引用しよう：

「ローマ教会の計画や運営方式には遠大なものがある。この教会は、再び世界を支配するために、また迫害を復活させるために、またプロテスタントが行ったすべてのことを無効にするために、激しい決定的な戦いの準備として、その感化力を広げ、その勢力を強めようと、あらゆる手段を用いている」。

この著者によると、ローマ法王教の目的とするところは何か？

- ① 再び世界を支配すること
- ② 迫害を復活させること
- ③ プロテスタントが行ったすべてのことを無効にすること（①聖書、聖書のみが唯一の権威、②信仰による義認、③信教の自由、④万人祭司）

上記のイエズス会の目的と重ね合わせてみよう：

- ① 富の獲得
- ② 権力の獲得
- ③ 法王至上権の復興

今まで、イエズス会は、法王教のために命をかけて仕えるものと考えられていた。しかし、今年の初めにイエズス会士が法王に選出されたことは全く異例なことであった。普通は法王は死ぬまで法王であるが、これまた異例な退位となった。これは何を意味するかよくよくウォッチしていきたい。

日本キリスト教国化の準備は完了したか？

日本の有名なカトリック信者を数名挙げてみたい。

「宮中ふかく侵襲するカトリック勢力、日本キリスト教国化の準備は完了した」「天皇のロザリオ」鬼塚英昭著より。 <http://blog.goo.ne.jp/2005tora/e/f3101178c8ea3ee61102449ac81ad405>

「(ローマ)法王は(1981年)2月25日、世界最初の原爆被災地広島で平和アピールをした。翌2月26日、法王は日本カトリック教会殉教の地長崎を巡礼し、『日本神道はやがて、神へいたる道である』と述べた。神とはキリスト教の神を意味する。

- つまり、ローマ法王と、法王庁、バチカン、やがて日本の天皇に成るべき当時の皇太子夫妻が、キリスト教徒でありつつも、日本の神道行事に参加することは差し支えない、との正式の認可を与えたものと、了解出来る。
- 従って、平成天皇夫妻は、なんらの精神的葛藤なしに、キリスト教徒であり続けつつ、日本神道の行事にも参加出来るわけである。
- しかし、もちろん、これは、いわば方便であり、便宜的、過渡的措置である。
- いづれ、既にキリスト教化して居る日本の天皇は、公然、キリスト教徒としての自分たちの立場を宣言して、神道を明確に捨てるべき時が来るであろう」。

＜ご質問＞

聞くとところによると、宮内庁の侍従の中にはカトリック信者が多いと聞きます。

＜お答え＞

わたしが聞いたところでは、宮内庁はイギリス聖公会の信者が多いそうで、どちらにしろ、皇室はキリスト教員であることはたしかなようです。宮廷の半数をキリスト教員で固めているとも聞きます。事実、天皇家の人選は、キリスト教員に偏っています。今上天皇が皇太子だったころ、家庭教師にヴァイニング夫人というクエーカー教徒を選んでいましたし、お后には^{ふたば}聖心と一貫してキリスト教系の学校で学ばれた美智子様を選んでいました。三谷隆信侍従長、浜尾実、杉井侍従、入江侍従、村井長正など、侍従にはキリスト教員が多く、常陸宮は無教会

派のキリスト教員村井侍従の影響でキリスト教員になったといえます。田島道治宮内庁長官、前女官長の松村淑子、現女官長の井上和子はキリスト教員です。美智子さまのご結婚を推進なさった東宮参与の小泉信三も、臨終洗礼を受けたといえます。浜尾実侍従の弟・浜尾伺郎は現在バチカン市国の大司教をしており、かつて天皇陛下にラテン語のご進講をしました。浜尾実氏は、「私自身、20歳のクリスマスに洗礼を受けています。宮内庁入りする6年前のことだし宮内庁はすべて知ったうえで、私を入れたわけですから、キリスト教員であることはいっこうにかまわなかったわけですね」と述べました。現在の皇太子の音楽教師もカリスマ派のキリスト教員が務めていました。昭和天皇は美智子妃がキリスト教員だということで迫害したという話がありますが、それも誤解であることがわかっています。昭和天皇自ら、入江侍従を通じて鈴木東宮大夫にこうお伝えになったそうです。「このようなことは事実でないばかりか、心に思ったことさえなかった。こういう問題がむし返されて時々出てくるので、美智子がかわいそうなので念のために……」明治天皇の側近には、オランダ系米国宣教師フルベッキがおり、明治天皇の和歌には信仰がなければ歌えない歌が数々あるといわれています。昭和天皇、今上天皇皇后両陛下は、牧師を招いて聖書講義を受けています。

<http://www.millnm.net/qanda/empp.htm> より

天皇家とカトリック

「感受性の強い時期にクエーカーであるバイニング夫人に学ばれた現在の天皇陛下に対して、皇后陛下美智子さまと皇太子妃雅子さまも第三世代キリスト教員派と関わっている。皇后陛下美智子さまの生家である正田家がカトリックであることはよく知られているが、皇后陛下美智子さまを天皇家に迎え入れたのは二世世代キリスト教員派の『新渡戸派＝



クエーカー派』であった。この流れは皇太子妃雅子さまにも受け継がれている」。http://www.asahi-net.or.jp/~vb7y-td/k6/160731.htm



吉田茂



国際政治家、緒方貞子



麻生元総理大臣

米国のジョージタウン大学と日本の上智大学

国際政治家として活躍した緒方貞子：

聖心女子大学卒。ジョージタウン大学で修士号、カリフォルニア大学バークレー校で博士号取得。76年より3年間、国連日本政府代表部公使、特命全権大使を務める。上智大学教授を経て、91年より国連難民高等弁務官として難民支援活動に取り組む。



上智大学

ジョージタウン大学とは、アメリカ合衆国におけるカトリック教会及び、イエズス会創設の大学としては、最古の歴史を持つアメリカの国会議事堂の最も近いところに位置して、政界に最も多く人材を輩出しているイエズス会の大学院である。

日本では、上智大学である。

世界の真実の姿を求めてより

http://oujujuju.blog114.fc2.com/blog-entry-797.html

ジョージタウン大学院の、戦略国際問題研究所（戦略・国際問題研究センター） (Center for Strategic and International Studies, CSIS) は、1964年に設立された

保守系シンクタンクである。アメリカ合衆国のワシントン D.C. に位置する。ここを卒業した有名人を数人だけ挙げた。



河野太郎



山本一太



小泉進次郎

CSIS は、南アのスパイ組織＝国家安全局 BOSS と協力し、南アの金塊・ダイヤモンド・ウランと、中国製麻薬の利益＝兵器と「バーター取引」を行う、諜報・スパイ組織。CSIS は、イスラエルに兵器を供給し、中東戦争によって「石油価格を高騰させる」、石油王ロックフェラーのための「石油価格コントロール」センター。

現在、CSIS は、米陸軍・海軍直系の軍事戦略研究所でもあり、米軍の持つ膨大な数の生物化学兵器の管理センターともなっている。

CSIS の顧問には、ヘンリー・キッシンジャー、その弟子でライス国務長官の師匠であるブレント・スコクロフトが名前を連ねる。ロックフェラー・ロスチャイルドの世界帝国建設のための軍事戦略を「描いた」ズビグニュー・ブレジンスキー（大統領バラク・オバマのブレイン）が、CSIS の理事を務めている。

ヒトラーの側近の 1 人にハインリッヒ・ヒムラーという男がいた。ヒムラーはゲーリングやゲッベルス以上の信頼をヒトラーから得られるようになる。ヒトラーはヒムラーのことを「わたしのイグナチウス・デ・ロヨラ」と呼んでいたという。ヒムラーはキリスト教内秘密結社、カトリック内過激派とされる「イエズス会」を研究し、範とした。

アメリカにおける国内独裁と国土管理のための備えとして重要な組織の一つが、連邦緊急事態管理庁 (FEMA) である。FEMA 創設の中心人物は CSIS の理事で



あるズビグニュー・ブレジンスキー。アメリカに戒厳令が発令され FEMA が活動するときは、CSIS = イエズ会の指令で動く。

CSIS（戦略国際問題研究所）の日本部に、客員研究員として、日本の防衛省、公安調査庁、内閣官房内閣情報調査室の職員が加わっている。ジェットロや損保会社、NTTの職員も客員研究員として名を連ねている。

小泉の後継者・進次郎は、コロンビア卒業後、CSISに入っている。

上智大学卒業者の有名人、二人だけ挙げる。

ちなみに、カトリックの教育機関を調べた。

日本のカトリックの大学合計 20

短期大学 20、高等学校 114

中学校 98、小学校 54

幼稚園 548



曾野綾子

そして、真実を知らない日本人にとって非常に意味深いと思わせられるのは、2008年1月15日、ローマで開かれていた第35回イエズス会総会において、日本の上智大学に学び同校において教鞭を執ったこともあるスペイン人会士アドルフォ・ニコラス神父が新総長に選出されたということだ。広島での活動が有名で上智大学で教鞭もとっていた28代ペドロ・アルペ総長に続く、日本に縁の深い人物の総長就任となった。



ここで思い出したいのは、E.G. ホワイトの言葉である：

「彼らの行ったところは、どこでも法王権が勢力を回復した」。

日本を含む世界中がイエズス会に占領されつつあ

ることを、どれだけの日本人が知っているだろうか？

徳川将軍が250年の鎖国をして後、再びイエズス会が日本に上陸してから、「徐々に、最初はこっそりと静かに、そしてそれから勢力をまし」てきた法王権に、気づく時ではないだろうか？ ザビエルが日本の植民地化に失敗してから、彼らは学んだ。日本のインテリ層を掌握することによってそれを成し遂げてきている。潜水艦のように、いつ姿を現すかわからない。プロテスタント教会はすっかり抵抗力を失ってしまった。もはや「プロテスタント」、(カトリックに抗議するの意) と呼ばれるにふさわしくない。

ヨハネ・パウロ2世は、ローマ法王教による中世時代(暗黒時代)の虐殺は遺憾であったと謝罪して回っていかにも、平和の使者のごとくふるまったが、聖書の預言は「不法の者」「反キリスト」と呼んでいる。プロテスタントは目覚めるときである。さし迫った危険について目をさまし、警告を与えないならば、もはや手遅れになってそのわなを逃れることができないであろう。

「また、ローマ教会は決して変わらないということがこの教会の自慢の種であることを忘れてはならない。グレゴリー7世やインノセント3世の主義は、今なおローマ・カトリック教の主義である。そして教会がもしひとたび権力を持つならば、過去の場合と同じ勢力をもって、その主義を行動に移すであろう。プロテスタントが日曜日をあがめる運動において、ローマ教会の助けを受け入れようと企てる時、彼らは自分たちのしていることがわからないのである。」

プロテスタントが自分たちの目的の達成に夢中になっている間に、ローマ教会は、その権力を再び確立して、失われた至上権を回復することをねらっているのである。教会が国家の権力を用いたり、支配したりするような、また宗教上の制度が国家の法律によって強制されるような、すなわち、教会と国家の権威が良心を支配するような、そのような原則が米国にひとたび確立されるならば、この国におけるローマ教会の勝利は確実なものとなる。

神のみ言葉はこのさし迫った危険について警告を与えてきた。これが顧みられないならば、プロテスタントの世界は、ローマ教会の目的が実際に何で

あったかを知った時には、もはや手遅れになってそのわなを逃れることができないであろう。

ローマ教会は黙々としてその勢力をのぼしつつある。その教えは議会に、教会に、また人々の心に影響を及ぼしている。…自分が手を下す時が来たら自分自身の目的を押し進めるために、教会は、ひそかに、そしてあやしまれないように、勢力をのぼしつつある。この教会が何よりも望むものは、有利な立場である。そしてこれはすでに教会に与えられつつある。われわれはローマ教会の真の目的が何であるかをまもなく見、かつ感じるであろう。神のみ言葉を信じ、それに従う者はだれでも、そのことによって非難と迫害を受けるであろう」(大争闘下 340-341)。

しかし、ここで特別に注意しておきたい！ここまで法王制度について述べてきたが、決して、決してローマ・カトリックの中にいる信者のことを非難しているのではない！

「しかし1つの制度としてのローマ・カトリックは、この教会の歴史上のどの時代においてもそうであったように、今日でもキリストの福音と調和するものではない。プロテスタント教会は大いなる暗黒の中にある」大争闘下 321。

「ローマ・カトリック教会の中に真のキリスト者たちがいることは事実である。この教会の幾千の者は、自分たちに与えられている最善の光に従って神に仕えている。彼らは、神の言葉を手に入れることが許されていない。だから彼らは、真理に気がつかないのである。彼らは、生きた、心からの奉仕と、単なる形式や儀式のくり返しとの間の、著しい相違に気づいたことがなかった。うわべだけの、満たされない信仰の中で教育されたこれらの人々を、神はやさしい憐れみをもってごらんになる。神は、彼らを取りまいて濃い暗黒に光が射し込むようにされる。神がイエスのうちにある真理を彼らに示されるので、やがて多くの者が神の民とともに立つのである」大争闘下 321。

世界的に有名な発見

だいしんけいきょうりゅうこうちゅうごくひ

「大秦景教流行中国碑」の真実

その改竄^{かいざん}にイエズス会が関わっていた！

そのレプリカが弘法大師・空海の開いた高野山と、京都大学文学部陳列館にもあるという。

日本に古くからキリスト教が伝わっていたと主張する歴史研究家がたくさんいる。早稲田大学名誉博士佐伯好郎は「景教」の世界的権威者として有名である。

※景教とは中国の唐の時代にペルシア人司祭「阿羅本」らによって伝えられたキリスト教。中国語で光の信仰という意味。

<http://godpresencewithin.web.fc2.com/pages/zatsugaku/firstchristian.html> より：

『西暦一世紀における東洋への伝道』という記事では、初期クリスチャンたちについて詳しく研究した学者たちによれば、**中国には、西暦 61 年頃、日本には、西暦 198 年か 199 年**に、キリスト教の宣教師が存在したという「証拠」がある、ということに言及した。

しかし、この「日本の歴史」(日本史)において、**西暦 198 年か 199 年(西暦二世紀)**という非常に早い段階で、もうすでに、キリスト教が伝わっていたなんて、「とても信じられない」と思われることだろう。

私たちは、学校では、そんなことは教わらなかったからである。(学校で教えてくれるのは、「いごよく(1549年)」である。)

景教碑は不思議な謎の世界にわれわれを誘い込んでゆくまるで異次元への扉のようです。

インターネットでは、さまざまなサイトで興味深い話題が提供されています。いくつかのサイトで提供される話題にはいわゆるトンデモ説、あるいはファンタジーと思われるものも多く、注意が必要です。しかし、これらは本当の真実を探す一つのヒントなのかもしれません。景教を巡る謎の世界あまりにも広く深く遠く素人である管理人には何が真実なのか判定するだけの知識はありません。

では、それについて詳しく研究した学者たちは、いったいどんな「証拠」に基づいて、そんなトンデモないことを言うのだろうか。

ウィキペディアより：

だいしんけいきよりゆうこうちゆうぐくひ
「大秦景教流行中国碑は、明末に長安の崇聖寺の境内で発掘された古碑。ネストリウス派（景教）の教義や中国への伝来などを刻す。唐代781年（建中2年）に伊しが建立した。碑文は景浄。古代キリスト教関連の古碑ということで世界的に有名。現在西安碑林博物館に保管されている」。

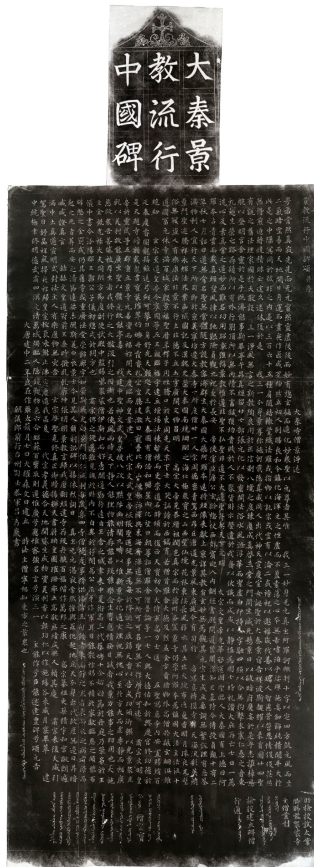
驚くべき事実！

セブンスデー・アドベンチストの(1872-1968)の牧師であり、教育家、メリーランドにある、ワシントン・ミッショナリー・カレッジの教授、神学部長でもあった著名なB.G. ウィルキンソンは、「Truth Triumphant=真理は勝利する」を書いた。

コーデル・ハル国務長官は、彼の博識を高く評価して国々の書庫を自由に開くように要請したと言われている。なぜかセブンスデー・アドベンチストの歴史では、評価されていない。「真理は勝利する」では、原始キリスト教が宣教に行った国々のあとにイエズス会が後を追って、突き崩すことを書いてあるからだろう。

Truth Triumphant 362.

1625年、中国において、約800年前(781年)に埋められた巨大な石碑が発見された。すぐにイエズス会士たちとその教育を受けた仲間たちがその碑を入手した。なぜなら、あまりにも多くの人々がこの興奮させる発見を見たり聞いたりしたので、イエズス会士たち(と中国の役人たちは(それぞれ自分たちの立場を守るために) どうやって人々をだまそうかと企てなければならなかった。(まずは、オリジナルの碑文を廃するために、そっくりの写しを造ることにした。) ウィルキンソン博士は、当時の中国のイエズス会の博学な指導者であったマーティン・マルティーニの言葉を引用して、その石碑の本物そっ



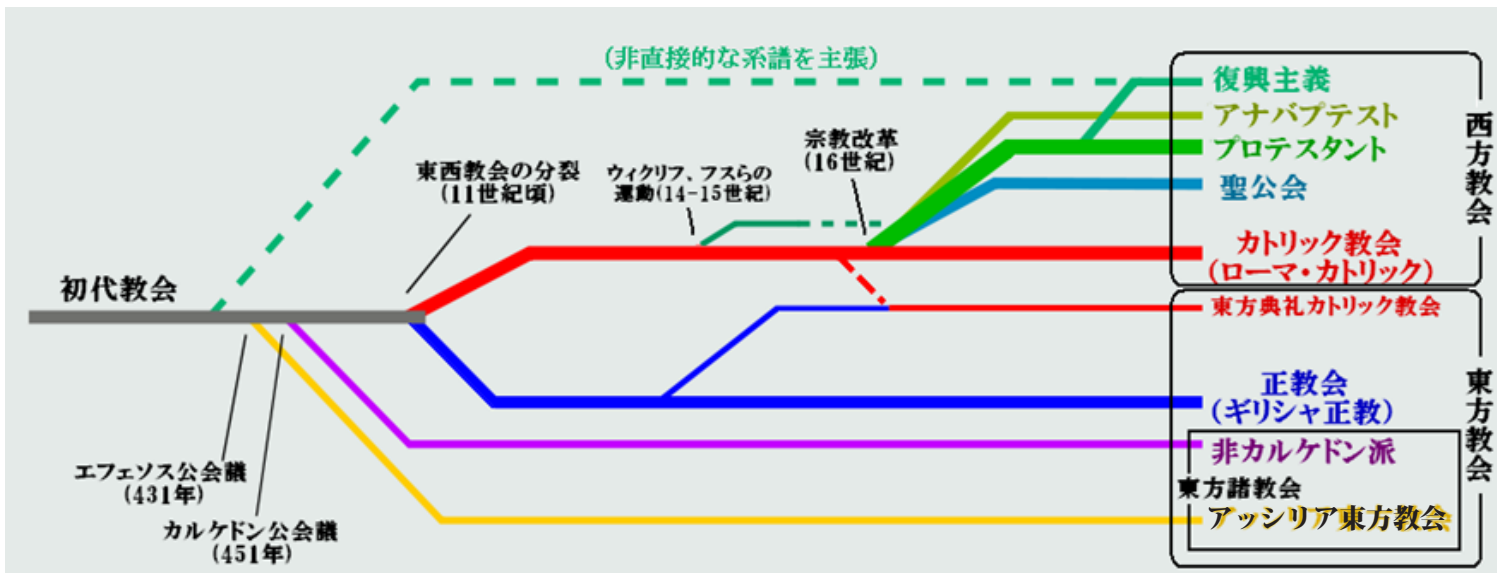
くりのレプリカが造られて様々な文字がその新しい石碑に彫り込まれたことを証明している。マーティン・マルティーニは次のように述べた。「当局の長官が、石碑の発見現場に行って、この立派な古代遺物の特徴を調査し、鑑定するや否や、彼はその発見を記念して記録を書き、同じサイズの石碑を造ることを命じた。その石碑には原文の内容が掘り込まれ、逐一オリジナルに刻み込まれているのと同じ文字が彫り付けられた」(Truth Triumphant 362)。

ではなぜ(中国の役人や) イエズス会士たちはわざわざ大金をかけて新しい石碑を造る必要があったのだろうか？ 答えは単純である。イエズス会士たちは、この新発見の石碑がローマ教会の嫌悪する敵、東方教会の広大な宣教領域を証明するものであると見なした。これは、自分たちのライバルの歴史を文字通り消し去るチャンスであった！(一方中国の役人たちの動機は何だったのだろうか？ 当時彼らは、中国の漢字は二千年も変わっていないと主張していたにも関わらず、実際は数百年の間に漢字は著しく変化しており、発見された石碑に彫り込まれた文字はあまりにも当時の文字と異なり読解できないものであったからだ。そこで中国当局とイエズス会士たちは互いに必要とし助け合って碑文を改ざんした。そして中国政府はオリジナルの石碑を破壊した。) …

しかし、イエズス会はシリア語の文字を書かれた通りに正確に写さなければならなかった。なぜなら彼らは、石碑が彫刻されて以来何百年も経って変化していたシリア語を読解する訓練を受けていなかったからである。

この(改ざんされた)石碑には次のような内容が書かれている。「キリスト教礼拝での偶像の使用や死んだ者のための祈り・・・中国の皇帝への崇拜、そして教会の壁に肖像画を掛けることの承認」(Truth Triumphant 363)。

私たちは東方教会が決してこのようなことを行わないことを知っている。従って、これらの文は明らかに石碑の「翻訳者」によってでっち上げられたも



のである。

尚、碑文のある個所には次のようなことも書かれている。「第七日に、私たちは自分の心を清めた後、犠牲（感謝と賛美のささげものである）をささげる。・・・この宗教はとても完全で優秀であるので名を付けるのが難しい。しかしこの宗教はその輝く教えによって闇を照らす」。(M. l'Abbe Hue, Christianity in China, Vol. I, Ch. 2, pp. 48-49.) (この碑文は改ざんされずに残っていたようである。)

シリア語の文字に、石碑が立てられた年代が書かれている。そこには中国の東方教会の指導者の長の正しい名前(アダム)が書かれている。またバグダットの総大主教の名前も書かれている。そして次のような文も書かれている。「この石碑にあるのは、私たちの贖い主であられるお方の教理であり、また中国の王たちに対する私たちの父祖たちによって説教された教えである」 Truth Triumphant 364。

※アッシリア東方教会は唐代の中国に渡り景教となった。
<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E8%A5%BF%E6%96%B9%E6%95%99%E4%BC%9A>

本能寺の変とイエズス会

本能寺の変に、いくつかの説があるようである。明智光秀が織田信長を討ったというのが一般的な説である。しかし、新たな謎が出てきた。イエズス会が、本能寺の変に関わっていたという証言だ。

立花京子氏の提唱を files/hon-zukai2.html、また立花京子 『真説／本能寺の変』(集英社刊)に見てほしい。1932年生まれの立花氏は、朝日カルチャーセンターの古文書講座に通い、独学で戦国史を研究。

この十年ほどのあいだに続々と論文を発表し、学会に衝撃を与えた。着眼や推論の組み立てが鋭く、専門外の私にも説得力がある。

見慣れた信長が、世界史の同時代に敏感に反応した強烈な人物像として、生き活きとよみがえった。世界スケールの日本人を描く傑作である。(橋本大三郎氏記載：2004年3月28日・朝日新聞より)



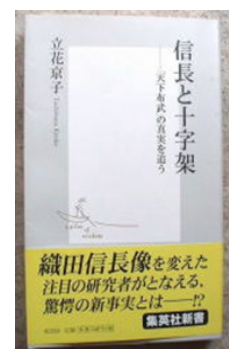
本能寺の変の企画においては、イエズス会が主役であった、という結論に到達した。イエズス会なら、その組織力、政治力、経済力から十分真の黒幕たりえるし、信長殺害の動機の痕跡も残っているという。

[2004.4.18 掲載]

＜本能寺の変の黒幕＞：

イエズス会の方も信長には、鉄砲の技術を教え、貿易で莫大な利益を与え、宣教師たちが集めた海外情報をふんだんに信長に提供していた。信長は、イエズス会の強力な協力があるって権力と富をほしいままにする。火薬、つまり硝石、さらには奥方の香水等々もふんだんに手にした。

しかし、おごり高ぶって、イエズス会のいうことを聞かなくなり、自分を創造主であるデウスと呼ばせたため、イエズス会に嫌われる。



「細川藤孝・吉田兼見・高山右近・津田宗及・楠長譜というイエズス会に密着し、かつ信長のブレンと認められた面々がすぐさま秀吉に従属したという不審な行動の謎は、イエズス会黒幕説ですべて説明が可能である。『本能寺の変』の黒幕はイエズス会であった。」（「信長と十字架」）

イエズス会が「本能寺の変」に關与した理由と根拠（EJ922号） ja.wikipedia.org/wiki/本能寺の変、参照。

本能寺の変、ビデオより：

「光秀は現場にいなかった？！」

本能寺の変で織田信長を殺したのは、明智光秀ではなく、イエズス会であったという。

光秀が1万3千の兵で急襲！時刻は午前3時頃だった。

歴史研究家の金谷俊一郎

は「1万3千の兵が7時間で移動するというのは不可能」と言う。当時の兵は、甲冑である具足一式で約30kgあったと言う。

鎧はたくさんの鉄板を使っていたのであるから20kgを7時間で亀山城址まで移動するというのは不可能

という。「まず城下町を通り、老いの坂という峠を通らなければならない。老いの坂は峠である。馬が一頭くらい、人であるなら、3人か4人くらいの隊列ぐらしか組めない幅で、十分余裕をもって進まない、それだけの人数が行軍するには、大変だったと思う。そこを越え、佳川を越えて本能寺に至ることになる。しかも、その川は橋が架かっていなかったの歩いて渡ったはずです。」

山科言経（やましなときつね）が書いた**言経卿記**には、本能寺の変の前日まで、雨が降り続いていたと記されているという。増水した佳川を渡るのは至難の業。そして雨でぬかるんだ山道では、さらに時間がかかったはずだ。光秀は、本能寺の変に間に合っ

ていなかったのだ。真の実行犯はいったい誰だったのか？

イエズス会のルイス・フロイス

「信長が厠（かわや）から出て手と顔を清めていたところを背後から弓矢を放って背中に命中させた。〔中略〕直後に信長は小生たちを呼び鎌のような武器を振り回しながら応戦していたが鉄砲隊が放った弾が左肩に命中した。信長は直後に障子の戸を閉じ火を放ち自害した。」

歴史研究家、佐宗邦皇氏の見解：

「信長を暗殺した実行犯は、イエズス会なのです。この文章はイエズス会が直接手を下した証拠だと考えられます。」

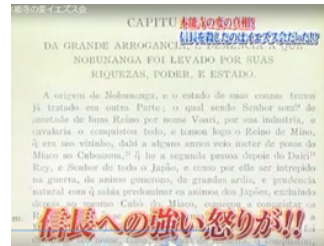
信長への強い怒りが記されていた。「信長がかくのごとく傲慢となり、世界の創造主であるデウスのみにも帰すべきものを奪わんとして〔中略〕その靈魂は地獄に葬られた。」

都留文科大学学長 今谷明教授曰く：

「信長は、その時、全域の8分の1位の面積の堀に囲まれた40m四方の境内、お城じゃなくて武家住宅にいた。しかも畳の数はそんなになかった。雑魚寝で寝たとしても40人以上は入れない。日常警護の武士はいなかった。」これまで本能寺は120平方メートルの城郭とされてきた。イエズス会は少人数でも信長を暗殺できたという。

しかし、なぜ光秀は主君殺しの罪を被ったのか？

イエズス会と近衛家の秘められた関係があったという。どうも知られざる陰謀があるらしい。



日本人がキリスト教を受け入れにくくなった原因

藤井寺キリスト教会 池田 豊牧師の許可を得て掲載

<http://agmagape.wordpress.com/>

日本にカトリックの教えが入ってきたとき、短期間に爆発的な勢いでキリスト教信者が生まれたことはよく知られています。

私たちが1998年から2006年の夏まで住まわせていただいていた高槻も、安土桃山時代、高山右近の統治の時期が終わり、右近が天正13年(1585年)に播磨国明石にそして、天正16年(1588年)に加賀国金沢城主の前田利家のもとに身をおくまでという、まさに、ザビエル布教より、36年から39年以下と四十年もたない短期間のうちに、高槻全領民の七割以上の住民が、キリシタンになっていました。

その当時の日本人がカトリック教を受け入れたその受容度は、世界でも類をみないほどの速度と浸透度でした。日本の中心であった京都には、キリスト教徒の住む地域が、デウス町という名で五つから六つあったと言われています。現在でもはっきりわかっているのは、四条堀川通りの南西区画がデウス町でした。安土桃山時代の日本における、ロサンゼルスとして名を残しています。

ですから、日本人がもともとキリスト教の教えに対して特別、アレルギーを持った人種だったという仮説は、どうみても間違いです。

ところが、1587(天正15)年に発

布された豊臣秀吉の禁教令に始まり、徳川時代の言語を絶するキリスト教迫害の歴史が二百七十年以上続いたために、キリスト教は根絶やしのような状態になりました。

(1587年の禁教令で外国人宣教師は日本から強制的に退去させられました。そして、実質的な迫害は1597年2月5日(慶長1.12.19)26聖人の殉教より始まりました。以来、キリスト教は262年余りもの間、厳しく弾圧され、1858年に日本人以外の外国人に信教の自由を日本国内において認める発令がなされるまで続きました。ローマカトリック以外のプロテスタント・キリスト教宣教師が1858年来日してから、日本人クリスチャンの数は、1859年から1890年にかけて、三年ごとに倍、倍と増加しています。

キリスト教徒をあぶりだすために、幕府が日本人全員を強制的に仏教徒にし、どこかの寺の檀家になるよう命じたのです。どこかの仏教寺院のメンバーにならなくてはならないという法律です。これを檀家制度と言います。家々に仏壇を安置させ、死者供養を義務づけ、僧侶が家々をまわり、読経(どきょう)するシステムを幕府が全ての日本人に対して、強制的に押しつけたのです。その結果、本来、経典も否定し、焼香も、お経を読むことさえ本来の仏教ではないと



していた曹洞宗、禅宗の僧侶たちさえも焼香をしたり、お経を読んだりするようになってしまいました。すなわち、本来は、経典が違い、拝む対象も違うならば、純粋に宗教を学問としてグループ分けするならば、科学的な感覚からすれば、仏教の各宗派は、本来別々の宗教でしたが、それらが江戸時代に、「日本仏教」というあたかも一つの宗教であるかのように、総括的に受け止められるようになってしまったのです。

小池長之博士の「日本宗教ものしり100」という本の190頁、23頁の解説を見ますと、以下の二点が明瞭に記されています。

一、1640年、宗門改めと檀家制度、寺請証文、法事と仏壇を家々に設置させたこと

二、仏教による死者供養を制度化したこと

これらはすべて徳川幕府の為したことでした。これらは、カトリック・キリスト教を禁止するための手段でした。仏教による死者供養

を制度化したのは、徳川幕府です。これはキリスト教禁止のための手段でしたが、神官や廃仏論者にまで、死ぬと仏教による葬式が義務づけられていたのです。ですから、日本人が全員仏教徒になったのは、江戸時代です。

小池博士の前著 190 頁には次のような文章があります。

「寛永(かんえい)一七年(1640)幕府は宗門(しゅうもん)改めを嚴重にし、全国民をどこかの寺の檀家になるよう義務づけた。寺ごとに宗門人別帳を提出させ、疑わしい者に対しては寺側から、『当寺の檀家に相違ない』という寺請け証文を出させた。そして葬式や法事を檀那寺の僧がやることを義務づけ、盆には、檀那寺の僧が檀家まわりをして仏壇や棚経(たなぎょう)のあることを確認させた。」

しかしやがて鎖国が解け、明治時代になった際のこと、最近新しい発見をしました。

1859 年から 1890 年の三十年間、日本のキリスト教信者は、三年ごとに倍々になって増加していたのです。

ところが、その後、状況が一変します。

著者: J. Dudley Woodberry の著作の中で用いられたヘンリー・ドラモンドからの引用文に以下のものがありました。

当初、日本にプロテスタント・キリスト教の宣教がなされた際、日本人の反応は以下のようであったことが観察されている。『三年ごとに、キリスト教会のメンバーシップは倍、倍と増加していった。(ドラモンド 1971:192) 1859 年から

1890 年の期間は、キリスト教の黄金期であった。しかし、1890 年にその状況が一変する何かが起こった。それは、教育勅語の発布だった。』

ジョン・デューリー・ウッドベリー著
Reaching the resistant: barriers and bridges for mission
パセディナ: ウィリアム・ケアリー・ライブラリー発行 1998 年 p118

ヘンリー・ドラモンドは、日本人がキリスト教を受け入れにくくなった原因を教育勅語の発布に見ます。

私は、それと共に、明治憲法発布のその日、日本の文部大臣が暗殺された事件もその原因の一つとなっていたのではないかと見ています。クリスチャンであった日本の初代文部大臣森有礼が暗殺され、山県有朋は、その後文部大臣となった榎本武揚を退任させ、自分の息がかかった芳川顕正にすげかえ、文部省を掌握しました。

この時点で日本の学校における宗教教育は、天皇を絶対者、支配者として拝む宗教のみのマインドコントロール状態と急激に変容していくのです。ですから、森有礼の死と教育勅語の発布は表裏一体的に、天皇の神格化を諮ろうとしていた山県有朋や元田永孚たちの日本のっとり計画のために、都合がよかったのではないかと思います。



先日、ティモシー・リチャード著「中国で 45 年宣教して」という本の中に、非常に面白い記述をいくつか発見しました。

広島にある宮島に、弘法大師が始めた寺があり、そこにバプテスマ槽もあって、その寺で、祭司(僧侶)が、cake と wine をもってきて聖餐式とほぼ同様の儀式をしているのに立ち会ったことが書かれています。

東京の博物館に貯蔵されているももとは、法隆寺の柱にシリア語の文章とみられる文字と、十字架のしるしが記されていることなどについても、佐伯好朗著 Nestorian Monument in China の序文でセイス博士が記しておられます。

Saeki, Nestorian Monument in China, Introduction by Sayce, vi.

東大の高楠博士が日本語に翻訳された、丙午出版社発行、「弘法大師と景教」の中では、ゴードン女史は、厳島の聖火や京都の大文字焼きが景教、キリスト教、インマヌエルの真理との関連があると白鳥博士の言葉を引用しながら記しています。また、ティモシー・リチャード著 Forty-Five Years In China の P.341 には、同様のことが記された後、リチャード博士が出雲大社に立ち寄られたことに関しても、とても興味深いことが記されています。

また、リチャード博士は、明治憲法発布直前の御前会議での明治天皇のご様子などについても書き記しています。

それによると、1908 年 1 月、伊藤博文とリチャード宣教師と話した内容が書かれており、伊藤博文は信教の自由をもりこみたかったようですが、当初はうまくいかなかったようです。P.344-345

前述しましたように、明治憲法発布のその日、クリスチャンだった文部大臣、森有礼は暗殺の刃に倒れ、翌日召天します。最初、伊藤博文が、憲法草案に信教の自由を入れようとしたとき、一人の閣僚が絶対反対だといったそうです。

英語での表現では、

When he read his first draft of the Article, the face of one member "turned as black as ink," and he exclaimed that he would never consent to grant religious liberty.

となっています。

しかし、信教の自由を認めないと、内乱が起こり、国がたちゆかなくなる恐れがあるというので、条件付けで、試験的にやってみようということになって、実際の明治憲法には、第28条に信教の自由の項目が入れられました。

けれども、この条件というのが、問題です。

「日本臣民ハ安寧秩序ヲ妨ゲズ、及び臣民タルノ義務ニ背カザル限りニ於テ、信教ノ自由ヲ有ス」という条文になりました。

この「安寧秩序を妨げず、臣民たるの義務に背かざる限り」という条件が、後に「不敬罪」という罪状で国民を弾圧することになりました。第二次大戦中もこの不敬罪が適用され、内村鑑三なども訴えられました。

理由は、明治憲法の第一章、第一条、第二条の文章です。

第一条 大日本帝国ハ万世一系ノ天皇コレヲ統治ス

第二条 天皇ハ神聖ニシテ侵スベカラズ

こう明記されてしまいましたので、これは、れっきとした天皇現人神(あらひとがみ)の宗教原則

です。信教の自由とは名ばかりで、ローマ皇帝シーザー崇拜を強要したクリスチャン迫害の時代とあまりかわらない憲法だったといえます。

山県有朋や元田永孚らの、天皇を中心とした富国強兵政策の下、日本人は、今度は全員、神道の氏子(うじこ)とむりやりさせられてしまいました。廃仏(はいぶつ)毀釈(きしゃく)といって、江戸時代、キリスト教の教会も全部、仏教のお寺に無理やりさせられてしまったものが、今度は、明治時代にお寺というお寺が全部、神道の神社に変えられてしまうという法律が施行されようとなりました。仏教徒の強烈な反対があって、最終的には廃仏(はいぶつ)毀釈(きしゃく)は完全に浸透しませんでした。しかし、日本人が全員、神道信者にさせられたのは、事実です。それは、昭和の第二次世界大戦の時代、日本人が八紘一宇の思想のもと情報操作でマインドコントロール状態になっていたことを見れば明らかです。神道の信者でないと非国民として糾弾されたのです。

以上のことを冷静に考えると、日本人は、もともとキリスト教に対して受容性をもたない、不感症の国民ではなかったということがわかります。しかし、豊臣、徳川時代の残酷なキリシタン弾圧と檀家制度、そして明治時代から第二次世界大戦敗戦までの氏子政策など、為政者の側からの宗教統制が原因で、日本人はキリスト教に対して偏見をもつことを余儀なくされる社会性を身につけたため、キリスト教を受け入れにくい国民となったのだと私は考えます。



われらの大祭司、諸王の王「イエス・キリスト」を仰げ！

そうすれば、あなたは永遠の神の王国の市民となる！

地上にサタンが自分の王国を打ち立てようとしているとき、我々は、天の神がご自分の王国を打ち立てようとしていることを忘れてはならない！

サタンはローマ法王教制度を通して、全世界の政治、経済、宗教を統一して「新世界秩序」「世界統一政府」の構築を急いでいる。聖書の預言は確実にそれを警告している！ダニエル7章、8章、11章、黙示録13章、17章。

法王教の最も強力なイエズス会が「活動する時は聖衣をまとい、牢獄や病院を訪ねて病人や貧者に奉仕し、世俗を捨てたことを公言し、よい働きをしながら巡回されたイエスの清い名を帯びていた。しかし、この潔白な外観のかげに、しばしば、極悪非道な目的が隠されていた。目的は手段を正当化するというのが、会の基本原則であった。法王教の全闘志中、最も残酷で無法で強力なイエズス会」は法王至上権を確立しつつある。大争闘上 293-294 参照。

我々は、この地上の誰をも何物をも拝んではならない。

天の神は、天の法廷の「調査審判」において、主権と光栄と国をキリストに与えようとしておられる。(ダニエル7:13～14)。同時にキリストの花嫁である「聖徒たち」に与えられる(ダニエル7:22)。

人類の仲保者、大祭司はただ一人、我々罪びとのために死んで、復活し、今、天の聖所で最後の執り成しをしておられるイエス・キリストである。

「神は唯一であり、神と人との間の仲保者もただひとりであって、それは人なるキリスト・イエスである」1テモテ2:5。

「イエスは天の聖所の第一室に、ちょっとの間とどまられた。…それからわたしは、イエスが祭司の服をぬいで、王の衣を身につけられるのを見た。イエスの頭上には、幾つもの冠がかさなり合っていた。イエスは天使の万軍にとりかこまれて、天を出発された。」初代文集 453-454

この地上のご自分の教会が用意を整えると、イエス・キリストは「王の王」として「白い馬」に乗って、最後の戦いに出陣される。

「またわたしが見ていると、天が開かれ、見よ、そこに白い馬がいた。それに乗っているかたは、『忠実で真実な者』と呼ばれ、義によってさばき、また、戦うかたである。その目は燃える炎であり、その頭には多くの冠があった。また、彼以外にはだれも知らない名がその身にしるされていた。彼は血染めの衣をまとい、その名は『神の言』と呼ばれた。そして、天の軍勢が、純白で、汚れのない麻布の衣を着て、白い馬に乗り、彼に従った。その口からは、諸国民を打つために、鋭いつるぎが出ていた。彼は、鉄のつえをもって諸国民を治め、また、全能者なる神の激しい怒りの酒ぶねを踏む。その着物にも、そのももにも、『王の王、主の主』という名がしるされていた。」黙示録 19:11～16

「彼ら(悪の勢力)は小羊に戦いをいどんでくるが、小羊は、主の主、王の王であるから、彼らにうち勝つ。また、小羊と共にいる召された、選ばれた、忠実な者たちも、勝利を得る。」黙示録 17:14

我々が今日当面している危機

レビュー&ヘラルド 1889年1月1日 E. G. ホワイトによる
津川隆信 訳

預言的歴史の成就において、時の終わりが迫っていることを示す諸事件についての知識を長い間持っている教会の状態に、我々は深い懸念を覚える。キリストが力と大いなる栄光のうちに来られると、「死人はそのしわざに応じ、この書物〔記録の書〕に書かれていることにしたがって、さばかれ」ることになっている（黙20：12）。我々の仲保者として立たれたお方、罪を悔いたすべての祈りと告白を聞かれるお方、恵みと愛の象徴である虹によって頭上を取り囲まれたお方が、天の聖所における働きを、間もなく終えようとしておられる。恵みと憐れみは、その時、御座から退き、正義がその座に就くのである。民が待ちわびてきたところのお方は、最高裁判官としての職権をお引き受けになられる。「父は、・・・子にすべての裁きを委ねられた・・・父は、裁きを行う〔執行する〕権威をも子に与えられた。子は、人の子であるからである」（ヨハネ5：27）。「生きている者と死んだ者とを裁く」ために定められたのは、子なる神であった、とペテロは言っている。「神は、義をもってこの世界をさばくためその日を定め、お選びになったかたによってそれを成し遂げようとしておられる」（使徒17：31）。

長く待ち続けてきた人々の信仰と忍耐は、激しく試みられてきた。希望が延び延びになって、心は病んでしまった。「主よ、いつまでなのですか？」との叫びが、神の御前にのぼってきた。しかし、時のしるし—国家間の紛争、地や海を襲う驚くべき災害、飢饉や疫病や恐ろしい嵐、洪水や大火災—は、今や成就しつつある。これらすべてのことは、大終結が近づきつつあることを証している。待ちわびている者たちから神に上っていく叫びは、むなしなものとはならない。「事はすでになった」。「・・・汚れた者はさらに汚れたことを行い、・・・聖なる者は、さらに聖なることを行うままにさせよ」という答えが返ってくる。教会は、この時代に関して、冷淡かつ無関心な態度でいられようか。

危機が今、我々に臨もうとしている。聖書に基づくキリスト教信仰と、人間の伝統に基づくキリスト教信仰との間で、戦いが勃発しようとしている。現在の眠たい状態にあって、犯罪的な怠慢が存在しないだろうか。我々のうちには、前進しようとする断固とした動きがなければならない。我々は、国家改革運動と関連した、現在起こっている諸事件に、預言の成就を認知していることを、世に示さなければならない。過去30

年、40年の間、必ずやってくると我々が宣言してきたことが、今ここに起こっている。シオンの城壁の上に立つすべての夜回りのラッパは、警告の音を上げなければならない。

預言は、子羊のような角をもち持っているが、龍のように語るプロテスタント諸教会を表している。我々は、すでに龍の声を聞き始めている。日曜運動を推進するサタンの力が存在するが、それは人々の目に隠されている。その働きに携わっている者たちでさえ、自分たちの運動につづく結果が見えていない。神の戒めを守る民である我々は、あたかも事態を甘んじて受け入れたかのように、この時に沈黙してはならない。我々の前途には、投獄や財産の喪失、また生命をも失う危険を冒してまで、人間の法律によって無効にされている神の律法を擁護するための、絶えざる戦いがある。我々は、次の聖句でもって詰め寄られることだろう。「すべての人は、上に立つ権威に従うべきである。・・・存在している権威は、神によって立てられたものだからである」と（ローマ13：1）。

キリストの復活後、弟子たちがキリストとその十字架を宣べ伝えたとき、当局者たちは彼らに、これ以上イエスの名によつ

て話しても教えるでもないと言った。ところが、「ペテロとヨハネとは、これに対して語った。『神に聞き従うよりも、あなたがたに聞き従うほうが、神の前に正しいかどうか、判断してもらいたい。わたしたちとしては、自分の見たこと聞いたことを、語らないわけにはいかない』」（使徒4：19－20）。彼らは、イエスとその十字架、そして彼が後に死人の中からよみがえられたことを宣べ伝え続けた。病人は癒され、幾千万の人たちが教会に加えられた。「そこで、大祭司とその仲間の者、すなわち、サドカイ派の人たちが、みな嫉妬の念に満たされて立ち上がり、使徒たちに手をかけて捕え、公共の留置場に入れた」（使徒5：17－18）。

しかし、宇宙の強大な支配者であられる天の神が、御手をもってこの事態に介入なさった。それは、人々が神のみわざに戦いを挑んでいたからである。神は、人の上には支配者がおられて、そのお方の権威を敬わなければならないということを明瞭に示された。主は夜の間には天使を遣わし、牢獄の扉を開かせられた。そして、みわざを行うように任命されたこれらの人々を、解放なさったのである。かくして我々は、これらの役人たちが神の言葉に調和していなかったことが分かる。彼らが神を助言者としていたなら、御心に反する行動をとるようにと弟子たちに命じることはなかったであろう。役人たちは、「イエスの名によって語ることも説くこともいっさい相成らぬと言いわたした」（使徒4：18）。しかし、神から遣わされた天の使者は言った。「さあ行きなさい。そして、宮の庭に立ち、この命の言葉をもれなく、人々に語りなさい」と（使徒5：20）。

法王教の法令を守るよう、また神の権威を踏みにじるよう人々に強要する者たちは、使徒たちの時代の律法学者、パリサイ人やサドカイ人と同じ行動をとっているのである。地の支配者たちの法律が、宇宙の至高の支配者の律法と対峙するそのとき、神の忠実な臣民は、神に忠誠を尽くすであろう。

世と教会が結束して実現させた国家改革運動は、過去の幾時代にもわたって横行したのと同様の抑圧、高ぶり、傲慢、不寛容を露呈するであろう。当時、人間の会議に連なる権力者たちは、神位の大権を横領し、専制的な意思のもとに良心の自由と個人的責務の権利を打ち砕いた。彼らの命令に反対した人たちの行く末は、投獄、追放、死であった。

多くの人は、法王教が再びよみがえる見込みはないと主張するであろう。もし法王教が失われた支配権を回復するとしたら、それは新教が親交の右の手を差し伸べたことによるのである。もしも法王教が、日和見主義者らの承認を得て、法的に権力の座につくならば、法王教の誤謬と引き換えに、良心と真理を犠牲にしない者たちに対して、再び迫害の火が点じられるであろう。いったんキリスト教界の心が神から離れ、神の律法がさげすまれ、神の聖なる日が踏みにじられると、サタンが誘導するいかなる道に足を踏み入れることもいとわないのである。

カトリックの宗教はかつてのようなものではない、と力説する人たちがいる。つまり彼らは、プロテスタントが譲歩できずに、憤然として立ち上がり、敵対して戦ったところの原則は、無知と野蛮の時代にカトリックが保持していたものであったというのである。人々が高い知的発達を遂げた現代においては、過去に実施された行動計画、すなわち宗教の問題に関して良心を強制するようなことは、決して容認されず、行われまいとしようとするのである。しかし聖書の中に、法王制の復権はあり得ないことを保証している言葉は、何一つない。今日の新教徒〔プロテスタント〕らは、うぬぼれの強い、世俗を愛する人々である。けれども、何らかの宗教を持たなくてはならないので、純朴なイエス・キリストの宗教よりも、むしろ形式的で外面的なものを好むのである。自分は賢いとうぬぼれるあまり、神に勧告と指導を求めること、すなわち天国への唯一の道を彼らに指し示す案内書〔ガイドブック〕を開くことができないのである。彼らは、屈辱、自己否定、自己犠牲のうちにあられるイエスに対して心を閉ざし、サタンの惑わしに扉を開いている。

新教〔プロテスタント〕界がローマに譲歩する態度をとっている間に、我々は状況を理解するために奮起し、眼前にある戦いの真の意味を捉えるべきである。人々が眠っていた間に、サタンはこそこそと毒麦をまいてきた。今こそ夜回りに、ラッパのように声を上げさせ、この時代のためのメッセージである現代の真理を伝えさせなさい。真のプロテスタント主義の精神が全世界を目覚めさせ、長く享受してきた宗教自由の

特権の価値を知覚するようになるために、我々が預言的歴史のどこに生存しているかを彼らに知らせなさい。

この国〔米国〕は、大いに神の寵愛を受けてきた。この国は、宗教的光と自由の中心そのものとなってきた。ああ、今眠ってはいけない。また、何もしていないのに、自分たちは神のみ心を行っていると感じてはいけない。現在、神の戒めを守る民の経験は、我々に襲いかかりつつある諸事件に見合うものとなるべきである。

地のすべての義人たちは、迫りくる危機のしるしを見るとき、行動を起こすことを本分とすべきであり、破滅を予期しながら平然とし、すべては預言されているから、この事業はおのずと前進するに違いない、また主は試練の日にご自分の民を保護なさるだろうと信じ込んで、自らを慰めている場合ではない。この惨禍が延ばされるようにとの、効果的で熱心な祈りが、天に上げられるべきである。なぜなら、我々はそうした災いに会う備えができていないからである。

現在、経過している一刻一刻は、天の宮廷において、間もなく我々の前に開かれる大いなる場面で役割を果たすべく、地上の民を備えるための活動の時となっている。我々にとってはほとんど価値のないように思われる、こうした束の間の時は、永遠の関心と呼ぶ重大事であふれている。これらの一刻一刻が、魂の運命を、永遠の命か永遠の死へと形づくっている。今日、我々が人々の耳に語る言葉、我々がなしている働き、我々が伝えているメッセージの精神は、人間の魂にとって命から命に至る香り、あるいは死から死に

至る香りとなるのである。我々は、小羊の血によって、自分たちの品性という衣を洗っていなければならない。もし我々が天の聖徒になることを望むなら、まず地上の聖徒にならなくてはいけない。

我々は、自分たちの生きていて、十分に理解していなかったので、不活動のうちに多くの時を失ってしまった。我々は、このことを嘆き悲しみ、神の御前で魂をへりくだらせて、任務中に眠ってしまい、敵に有利な立場を与えてしまったことの赦しを請うものである。多くの者たちは、敵を撃退することに打ち込んでいるべき時に、何もしないことを選んだ。今、あなたがたの奉仕を神にささげなさい。「ここに私がおります。主よ、私をお遣わしてください」と言い、精神的に働くために武具を身にまといなさい。

神の民のために御声と御力が明らかにされ、真理がもっと十分に宣布され、神の僕たちが額に印されるまでは、天使らが天の四方の風を引き止めるようにと多く祈ることは、我々にとって不可欠である。神は民の態度を喜ばれない。サタンは世界を虜にしており、神と真理の番兵はサタンがそうすることを許している。「目を覚ましていなさい。信仰に立ちなさい。男らしく、強くあってほしい」(I コリント 16:13)。目覚めて最前線に進みなさい。あなたの宗教自由を擁護するために、頑強でいなさい。

我が民の多くは、怠惰な僕として天の書物に登録されている。彼らは、金銭や能力といったタラントを世に埋めてしまった。また、なすべき働きが、なされず

に放って置かれた。主が財産を委ねられた者たちの幾人かは安逸を愛する者たちであり、神への畏れと愛のうちに、自分たちの義務を果たしてこなかった。多くの者は、小さな教会を去って大きな教会に連なり、そこではどんな重荷をも負うことはせず、じまな存在になっているだけである。そのような者は、霊性と活力を失う。なぜなら彼らは、真理のためにほとんど何もしないからである。「あなたの会計報告を出しなさい」と言われるとき、これらの者たちは、主人にどんな報告をするのだろうか。

我々は、日曜休業令の施行が我々にもたらす、この大いなる争点に備えができていない。教会員を主のために働く伝道





分自身の安逸に関心を抱き、キリストが命を捨てて救おうとなさった者たちを、恵み深い神が与えて下さった真理の知識を持たないで滅びるままに捨て置くような、イエス・キリストの協労者となるのを拒む者たちの同類と見なされる。霊的な光を受けた人たちが、暗闇の貯蔵所となることもある。このような者たちには、次のキリストの言葉が当てはまる。「だから、もしあなたの内なる光が暗ければ、その暗さは、どんなであろう」(マタイ6:23)。

「しかし、兄弟たちよ。あなたがたは暗闇の中にいないのだから、その日が、盗人のようにあなたがたを不意に襲うことはないであろう」(I テサロニケ 5:4)。この聖句が、神の律法の知識という本物の信任状を託された神の民についても真実であるように、願うものである。「あなたがた自身がよく知っているとおりに、主の日は盗人が夜くるように来る。人々が平和だ無事だと言っているその矢先に、・・・突如として滅びが彼らをおそって来る」(I テサロニケ 5:2、3)。光と証拠を持つ多くの人々が、「主の来臨の約束はどうなったのか」(II ペテロ 3:4) と言って、「すべてのものは初めからそのままであって、変わってはいない」(II ペテロ 3:5) と断言しているその時に、神の日の恐るべき現実が、彼らに炸裂するであろう。この世代の盲目さは目をみはるものがあり、筆舌に尽くしがたい。

今 すべての真実な神の子は、「私に何をさせようとしておられるのですか？」と尋ねているべきである。同志諸君、キリストのために今、何かをしなさい。悪魔的感化は周囲のいたるところ

に及んでおり、我々はこれらの感化に当面し、抵抗すべきである。毒麦は麦と混ざっているし、真理は誤謬と、冷淡さは熱心さと、暗闇は光と混ざっている。我々は、初めの愛に戻らねばならない。試練と試みと神の試験の只中であって、艱難や危険と堂々と戦わなければならない。我々は、信仰と善行に富んでいなくてはならない。ラオデキア教会へのメッセージは、豊かな真理の宝庫とされてきた人たちに当てはまる。この教会は、進んだ光を持っていると大胆に公言することによって、預言の中で特色づけられている。にもかかわらず、その宗教は霊的誇りと生ぬるさで満ちていた。宗教的な理論は持っていたが、道徳的な力と聖潔さが大いに欠けていた。彼らは惨めな者、貧しい者、盲目な者、裸な者と宣言されている。ああ、我が民が危険を悟り、「富む者となるために、わたしから火で精錬された金を買ひ、身に着けるように、白い衣を買ひなさい。・・・見えるようになるため、目にぬる目薬を買ひなさい」(黙 3:18) という真の証人の勧告に留意することを願うものである。

非常に大きな光を持っている我々は、今、御自らの貧しさを通して我々が富む者となるようにと、我々のために貧しくなられたイエスのために、何らかの犠牲を払うであろうか。我々は奮起し、主のための敬虔と熱心な働きを通して、神が我々とともに、我々によって、我々を通して働かれるように、魂を愛する主の精神と、神に対する信仰にあずからなくてはならない。

者としなさい。彼らを安逸と無関心のうちにだらだらと過ごさせるのではなく、神のための働きに出で行かせなさい。彼らの霊的筋力は、不活動のためにほとんど麻痺している。キリストと真理のために非難を受けつつも、野営地を出て行きなさい。今日、主のぶどう園で働きなさい。大通りや垣根に出て行き、真理を研究するよう人々の心をかきたてなさい。光の中を歩いていると公言しながら、シオンで安逸をむさぼるすべての人は、災いである。彼らは、神から与えられた義の光線を吸収するが、その光を他の人たちに発散させない。主の金銭を隠した不信仰な僕のとえは、そうした者たちに有罪判決を下し、彼らは、利己的にも自

平和をもたらす道

池宮城 義浩

ルカ 19:42 「もしおまえも、この日に、平和をもたらす道を知ってさえいたら……しかし、それは今おまえの目に隠されている。」

この聖句は私たちにとって実に意味深長な言葉であります。

今朝はこの聖句にある「平和をもたらす道」について考えてみたいと思います。

I . 聖書は矛盾している？

聖書の中に「平和」という言葉が出てきますが、これをコンピュータで検索してみますと91回出てきます。「平和」という言葉を一つ一つ見ていくと、途中でなんだか矛盾するのではないかと思わされる箇所に出会います。

見てみましょう。

①イザヤ 9:6 …その名は、「霊妙なる議士、大能の神、とこしえの父、**平和の君**」となえられる。

マタイ 5:9 平和をつくり出す人たちは、さいわいである、彼らは神の子と呼ばれるであろう。

ローマ 12:18 あなたがたは、できる限りすべての人と平和に過ごしなさい。

②マタイ 10:34 地上に平和をもたらすために、わたしがきたと思うな。平和ではなく、つるぎを投げ込むためにきたのである。

ルカ 12:51 あなたがたは、わたしが平和をこの地上にもたらしするためにきたと思っているのか。あなたがたに言うておく。そうで

はない。むしろ分裂である。

ある箇所では、キリストは「平和の君」であるといい、また「平和をつくり出す人は幸いである」といい、更に「すべての人と平和に過ごしなさい」と言っている。しかし、あるところには、キリストは「平和ではなく剣を投げ込むためにきた」といい、「むしろ分裂である」とも言っている。これはいったいどういう意味なのでしょう。

次の引用文を見ると明らかです。

大争闘上 40

「それならば、どうして福音を、平和のメッセージと呼ぶことができるのであろうか。イザヤはメシヤの誕生を預言して、彼を『平和の君』と呼んだ。また天使たちは、キリストの誕生を羊飼いたちに告げたとき、『いと高きところでは、神に栄光があるように、地の上では、み心にかなう人々に平和があるように』とベツレヘムの平原の上で歌った（ルカ 2:14）。これらの預言の言葉と、『平和ではなく、つるぎを投げ込むためにきた』というキリストの言葉との間には、一見、矛盾があるように思われる（マタイ 10:34）。しかし、正しく理解されるならば、この二つは完全に一致している。福音は平和のメッセージである。キリスト教は、それを受け入れて従うならば、全地を平和と一致と幸福で満たすものである。キリストの宗教は、その教えを受け入れるすべての者を親しい兄弟関係に入れる。イエスの使命は、人々を神と和解させ、そしてお互いに和解させることであった。しかし世界は一般に、キリストの大敵サタンの支配下にある。福音が彼らに、彼らの習慣や欲望と全く異なった生活の原則を示すために、彼らはそれに反逆する。彼らは自分たちの罪を指摘し非難する純潔を憎む。そして、その公正で神聖な要求を守るように勧める人々を、彼

らは迫害し滅ぼすのである。福音のもたらす崇高な真理は、憎しみや争いを引き起こすものになるために、この意味において、福音は剣であると言われているのである。」

希望中 92, 93

「救い主は、福音に対する敵意が克服されるだろうとか、しばらくしたらその反対がやむだろうなどと望んではならないと、弟子たちに命じられた。キリストは、『平和ではなく、つぎを投げ込むためにきたのである』と言われた（マタイ 10:34）。このように戦いが起るのは、福音の影響ではなくて、福音への反対の結果である。」

お解りでしょうか。キリストは常に平和の君であります。そしてキリストの福音もそれを受け入れる者にとって平和と喜びを与えるものであります。しかし、生まれながらの性質は、神の福音の原則が罪を指摘し悪習慣を責めるので、これに反発してしまいます。もし私たちが素直にみ言葉の指摘を受け入れて聞き従うのであれば、神との間に平和が保たれるのであります。

II . 選民イスラエル

ルカ 19:42 「もしおまえも、この日に、平和をもたらす道を知ってさえいたら……しかし、それは今おまえの目に隠されている」。

イエス様はいったいどんな気持ちでこの言葉を語られたのでしょうか。

希望下 12, 13

「イエスは、これまでたびたび病める者と苦しむ者とを祝福されたそのみ手をあげ、滅ぶべき運命に定められた都の方を指さして、とだえがちな悲しい口調で、『もしおまえも、この日に、平和をもたらす道を知ってさえいたら……』と叫ばれた（ルカ 19:42）。

救い主は、ここでことばをきり、もしエルサレムが、神が与えようと望まれた助け、すなわち神の愛するみ子を受け入れていたら、どういう状態になっていたかについては何も言われなかった。もしエルサレムが知る特権のあった事から知って、天の神が送られた光に心をとめていたら、それは輝かしい繁栄のうちに、国々の女王として、神から与えられ

た豊かな力をもって続いていたかもしれないなかった。武装した兵士たちがエルサレムの門に立つことも、ローマの旗が城壁にひるがえることもなかったであろう。もしエルサレムが救い主を受け入れていたら、エルサレムのものとなったかもしれない輝かしい運命が、神のみ子の前に浮かんだ。エルサレムは、救い主を通して、その悲しむべき病気をいやされ、束縛から解放されて、地上の偉大な首都として固く立ったかもしれないということを、イエスはごらんになった。エルサレムの城壁から平和のはとがすべての国々に飛んで行ったであろう。エルサレムは、世界の栄光の王冠となったであろう。

しかしエルサレムがそうになっていたかもしれない輝かしい光景は、救い主の視界から消える。主は、エルサレムがいまローマのくびきの下にあって、神の不興を招き、神の報いの刑罰を受ける運命にあることに気がつかれる。主は切れた嘆きの糸をとりあげられる。『しかし、それは今おまえの目に隠されている。いつかは、敵が周囲に 壘を築き、おまえを取りかこんで、四方から押し迫り、おまえとその内にいる子らとを地に打ち倒し、城内の一つの石も他の石の上に残して置かない日が来るであろう。それは、おまえが神のおとずれの時を知らないでいたからである』（ルカ 19:42-44）。』

「エフライムよ、どうして、あなたを捨てることができようか。イスラエルよ、どうしてあなたを渡すことができようか」（ホセア 11:8）という思いをイエス様は最後まで持っておられたのでしょうか。

しかし、彼らは神から離れた。エルサレムの都は美しく、神殿は高くそびえていた。それだけにイエス様にとって、実に悲しい風景だったことでしょう。

III . イスラエルは王を求めた

イスラエルには十戒が与えられ、神の言葉を託された特選の民でした。創造主のみを王とする神政政治を神は望んでいました。彼らを通して、全世界に神の知識、救いの計画を伝えることになっていました。しかし、彼らは神のみ旨から離れていきます。彼らはそれが嫌で他国のように王を求

めるようになりました。

あけぼの下 201, 202

「イスラエルの人々は、ミデアン人から救い出されたことを感謝して、ギデオンが彼らの王となり、彼の子孫が代々王となることにしようとして申し出た。この申し出は、神政政治の原則とは全く正反対のものであった。神がイスラエルの王であられた。であるから、彼らが人間を王座につけることは、彼らの王であられる神を拒むことになる。ギデオンは、この事実を認めた。彼の返答は、その動機がいかに真実で気高いものであったかを示した。『わたしはあなたがたを治めることはいたしません。またわたしの子もあなたがたを治めてはなりません。主があなたがたを治められます』と彼は言った（士師記 8:23）。」

ヨシュアの時代以来、イスラエルが最も繁栄した時代は、サムエルが民を治めていた頃であります。サムエルは、士師、預言者、祭司という三つの職責を神からゆだねられて、民の幸福のために、たゆまず熱烈な無私の精神をもって働きました。そして、国家は、彼の賢明な支配のもとに栄えたのです。秩序は回復し、信仰は深まり、不平の精神は一時おさまりました。しかし、サムエルの晩年になって、民は再び王を求めます。

「イスラエルの長老たちはみな集まってラマにおけるサムエルのもとにきて、言った、『あなたは年寄り、あなたの子たちはあなたの道を歩まない。今ほかの国々のように、われわれをさばく王を、われわれのために立ててください』」（サムエル上 8:4, 5）。

サムエルは民の要求に心を痛め、何とか思いとどまって欲しいと思いますが、世俗化への流れを止めることができませんでした。

「いいえ、われわれを治める王がなければならぬ。われわれも他の国々のようになり、王がわれわれをさばき、われわれを率いて、われわれの戦いにたたかうのである」（サムエル上 8:19, 20）。

彼らは平和の道からそれて衰退の一途をたどったのであります。

イスラエルの民は新約時代に入ってもなお、同

じことを繰り返します。

イエスは「わたしは道であり、真理であり、命である」と言われました。イエスが来られたのは、地に平和をもたらすためでした。「いと高き所では神に栄光、そして、地の上には平和、人々には幸いがあるように」ルカ 2:14(弥永邦昭訳)。「いと高き所には、栄光神にあれ、地には平和、人には恵みあれ」（明治訳）。

ヨハネ 1:11「彼は自分のところにきたのに、自分の民は彼を受けいれなかった」。彼らは、サタンにそそのかされて、平和の君を拒んでしまう結果になりました。

新約時代において、イエス様がまさに十字架にお掛かりになろうとするとき、その法廷においてピラトはイエス様に罪を認めることができなくて、イエスを釈放するように提案しました。

「しかしユダヤ人たちが叫んで言った、『もしこの人を許したなら、あなたはカイザルの味方ではありません』」（ヨハネ 19:12）。

希望下 252, 253

「それからピラトは、裁判官席にすわり、ふたたびイエスを人々に示して、『見よ、これがあなたがたの王だ』と言った（ヨハネ 19:14）。するとふたたび『殺せ、殺せ、彼を十字架につけよ』という狂気じみた叫びがあがった。ピラトは遠近に聞こえるような声で、「あなたがたの王を、わたしが十字架につけるのか」とたずねた。しかし、不敬虔で冒瀆的な口から、『わたしたちには、カイザル以外に王はありません』ということばが出てきた（ヨハネ 19:15）。」

「こうして異教の統治者を選ぶことによって、ユダヤ国民は神権政治から離れた。彼らは自分たちの王として神をこぼんだ。これからは彼らに救済主はないのだった。」

神に従わず、神から離れるならば私たちには平安はありません。そして、その行く末は滅びであります。

IV. 今日の私たちに 当てはめてみよう

- 今日私たちの教会において、神様のご臨在ではなく、世の風習、考え方、方法が入ってきていないでしょうか。
- 神様から委ねられている働きから離れて、別のことをしていないでしょうか。
- セブンスデー・アドベンチストに与えられた使命を語らずに、人受けする別のことを語っていないでしょうか。
- もしそうならば、私たちも平和をもたらす道から外れ、ユダヤ人と同じように衰退と滅びへの道をたどることになるでしょう。

国と指導者上 110, 111

「神が平安をお語りにならないのに、平安、平安と叫んで人を喜ばせるこうした牧師たちは、神の前に心を低くして、彼らの不誠実と道徳的勇気の欠乏についてゆるしを求めべきである。彼らが、彼らにゆだねられた言葉をなめらかにしたのは、彼らが隣人を愛したためではなくて、彼らが、放縦で、安逸を愛していたからである。真の愛はまず神の栄えと魂の救いを求める。この愛をもっている人々は、率直に語るために引き起こされる不愉快な結果を避けようとして、真理を回避することはない。魂が危機に陥っているならば、神の使者たちは、自分たちのことを考えず、悪を弁解したり、取り繕ったりしないで、彼らに与えられた言葉を語るのである。」

希望下 26

「神の預言者たちは、かくれた罪を明るみに出すので、背信のイスラエルから憎まれた。預言者エリヤは、アハブ王の秘密の不義を忠実に責めたので、彼はアハブ王から敵とみなされた。同様に、今日キリストのしもべ、すなわち罪を責める者は、嘲笑と拒絶に出会う。聖書の真理、すなわちキリストの宗教は、道徳的不純という強い風潮にさからって戦う。今日、人々の心の中の偏見は、キリストの時代よりも強い。キリストは人々の期待を実現されなかった。主の生活は彼らの罪にとって

一つの譴責であったので、彼らは主をこぼんだ。そのようにいまも、神のみことばの真理は人々の習慣や生来の傾向と調和しないので、幾千の人々がその光をこぼむ。」

大争闘上 39 に初代のキリスト教会について次のように書かれています：

「彼らは、神に対する忠誠と矛盾しないかぎり、どんな譲歩でもして、平和と一致を保とうとした。しかし、平和のために原則を犠牲にすることは、あまりにも大きな代価であった。真理と正義を曲げなければ得られない一致であるならば、彼らはむしろ不和をも、そして戦争をもいとわなかった。」

旧約時代において、イスラエルの民が神権政治から離れて、近隣諸国のように王様を立てたことや、新約時代にイエス様が王なる救い主であることを拒んだことは、今日の我々にとって何を意味するのでしょうか。それは、神のみ言葉の率直な真理を理解しようとせず、偽りの真理を語ることなのではないでしょうか。

V. 「神に仕えるか拒むか— その運命」

全人類は、唯一絶対神を「平和の君」として選ぶか拒むか選択する時が来ます。

しばし、神のご隣在があったシナイ山のできごとを考えてみましょう。

イスラエルの民は、シナイ山のふもとで平和をもたらすお方、創造主と特選の民として契約を結びました。神の臨在がシナイで現され、神の律法が示されたとき、想像を絶する神の威光の前にイスラエルは恐れおののいたのであります。

あけぼの上 400

「イスラエルの民は、その罪深さのために神の臨在の輝く栄光によって焼き尽くされることのないように、そこに近づくことを禁じられた。神の律法を宣言するために選ばれた場所に、こうした神の威光があらわれたとすれば、主が、これらの清い律法を執行するために来られる審判は、どんなに恐るべきものであろう。主の權威をふみにじってきた者たち

は、最後の報復の大いなる日に、どうしてその栄光に耐え得よう。」

人間が創造されて以来、シナイで律法が宣言されたときのような神の力のあらわれは、他では見ることができません。「シナイの主なる神の前に、イスラエルの神なる神の前に、地は震い、天は雨を降らせました」(詩篇 68:8)。

しかし、今日神はこのように宣言しています。

ヘブル 12:26「あの時には、御声が地を震わせた。しかし今は、約束して言われた、『わたしはもう一度、地ばかりでなく天をも震わそう』。」

また、聖書はこうしてしています。「主は高い所から呼ばわり、その聖なるすまいから声を出し、「天も地もふるい動く」(エレミヤ書 25:30、ヨエル書 3:16)。来たるべきその大いなる日に、天そのものも「巻物が巻かれるように」姿を消す(黙示録 6:14)。すべての山々島々は、その場所を動かされる。「地は酔いどれのようによろめき、仮小屋のようにゆり動く。そのとがはその上に重く、ついに倒れて再び起きあがることはない」(イザヤ書 24:20)。

モーセが十戒の板を受けて、神の臨在のもとから下ってきたとき、彼の顔は栄光に輝いていました。罪あるイスラエルの民は、その顔の栄光の輝きに耐えることができませんでした。

とするならば、神の律法を犯し続け、キリストの救いを拒んだ者の審判のために千々万々の天使たちを従えて、父の栄光に包まれて現れる神のみ子をどうして仰ぐことができるのでしょうか。

黙示録 6: 15-17

「地の王たち、高官、千卒長、富める者、勇者、奴隷、自由人らはみな、ほら穴や山の岩かげに身をかくした。そして、山と岩とにむかって言った、『さあ、われわれをおおって、御座にいまかたの御顔と小羊の怒りとから、かくまってくれ。御怒りの大いなる日が、すでにきたのだ。だれが、その前に立つことができようか』。」

詩編 76:7

「しかし、あなたこそは恐るべき方である。

あなたが怒りを発せられるとき、だれがみ前に立つことができよう。」

そのとき、罪の支払う報酬は死であることが明らかとなるのであります。

※しかし、すべての人がそうなのではありません。

あけぼの上 402, 403

「しかし、神の審判のラッパを聞いても、神の子らには恐れをいただく理由がない。『主はその民の避け所、イスラエルの人々のとりである』(ヨエル 3:16)。神の律法を犯す者に恐怖と滅亡をもたらすその日が、従順な者には『言葉につくせない、輝きにみちた喜び』を与える(1ペテロ 1:8)。」

シナイ山で神が語られたあの言葉は今も有効です。すなわち「もしあなたがたが、まことにわたしの声に聞き従い、わたしの契約を守るならば、あなたがたはすべての民にまさって、わたしの宝となるであろう。全地はわたしの所有だからである。あなたがたはわたしに対して祭司の国となり、また聖なる民となるであろう(出エジプト 19:5, 6)。」

スターディーバイブル 旧 111, 112

「これは神の民が最終時代になすべき誓約である。彼らが神に受け入れられるかどうかは、神と合意した協定の忠実な履行にかかっている。この契約には、神に従うすべての者が含まれる。」

祝福の山 93, 94

「永遠の生命を受ける条件は、恵みのもとにあってもエデンの時と同様で、完全な義、神との調和、神の律法の原則への完全な一致である。旧約聖書に示されている品性の標準は、新約聖書に示されているのと同じである。この標準はわたしたちの到達できないものではない。神のお与えになる命令やさしすにはみな約束、しかも非常に積極的な約束が含まれていて、それがその命令の基礎となっている。神はわたしたちが神に似た者となることができるように備えをしてくださっている。そして神は、人が曲がった意志をさしはさんで神の恵みをむなしくしない限り、これをなしとげてくださる。」(キリストの実物教訓 15、希望上 20、希望中 111、教育 135, 136 参照)

神の恵みによって清められ、神を心から敬い、神の戒めに従うことを選び続けて来た人々にとって神の大いなる日は、不忠実な者とはちがって輝かしい喜びの日となるのであります。

VI. どうすれば平和が実現するか

あけぼの下 288

「われわれは、神の試練を受けるときに、それがどのような重大事にかかわりがあるかを知らない。神のみ言葉に、全的に服従する以外に安全はない。神の約束は、すべて、信仰と服従を条件にして与えられたもので、神の命令に応じなければ、聖書に示されている豊かな恵みにあずかることができない。われわれは衝動にかられたり、人間の判断に頼ったりしてはならない。われわれはどんな環境にあっても、神の啓示されたみこころを仰ぎ神の明らかな戒めに従って歩かなければならない。結果は、神が責任を負ってくださる。」

患難から栄光へ上 306, 307

「キリストに従う者たちが、知恵を熱心に追い求めるならば、彼らはそれまで全く知らなかった広大な真理の野へと導かれるであろう。自分自身のすべてを神にささげている者は、神のみ手によって導かれる。彼は身分は低く、一見何の才能もないように見えるかもしれない。しかし、もし愛と信頼の心で神のみこころの示しに従うならば、彼の能力はきよめられ、高尚にされ、活気づけられる。そして彼の可能性が伸ばされるのである。天来の知恵に関する教えを大事にするとき、神聖な任務が彼にゆだねられる。彼は自分の生涯を、神をあがめ、この世の祝福となるものとすることができる。『み言葉が開けると光を放って、無学な者に知恵を与えます』（詩篇 119:130）。」

神様が我々に望まれることは次の通りです。

詩編 81:13 「わたしはわが民のわたしに聞き従い、イスラエルのわが道に歩むことを欲する」。

申命記 5:29 「ただ願わしいことは、彼らがつねにこのような心をもってわたしを恐れ、わたしのすべての命令を守って、彼らもその子孫も永久にさいわいを得るにいたることで

ある。」

申命記 10:12, 13 「イスラエルよ、今、あなたの神、主があなたに求められる事はなんであるか。ただこれだけである。すなわちあなたの神、主を恐れ、そのすべての道に歩いて、彼を愛し、心をつくし、精神をつくしてあなたの神、主に仕え、また、わたしがきょうあなたに命じる主の命令と定めとを守って、さいわいを得ることである。」

ルカ 19 章の「平和をもたらす道」とは、すなわち神に従うことなのであります。我々は神との関係において平和を得なければなりません。

希望下 27

「キリストは、オリブ山の高いところから、世界と各時代を見渡された。彼のみことばは神の恵みの訴えを軽んじるすべての魂にあてはまる。キリストの愛をあざける者よ、主はきょうあなたに語られる。平和をもたらす道を知っているべき者は『あなた』である（ルカ 19:42 参照）。キリストはあなたのために涙を流しておられるのに、あなたは自分自身のために流す涙がない。パリサイ人たちが破滅させたあの致命的な頑固な心はすでにあなたのうちにあらわれている。神の恵みの一つの証拠、天来の光の一すじ一すじは、魂をとがして従わせるか、絶望的な頑迷さを一層固くするかどちらかである。」

皆さん。これからますます真理よりも誤りの方が人気が出てくるでしょう。なぜなら、本来罪人は真理を好まない性質を持っているからです。しかし、わたしたちの働きは、主の再臨に人々を備えさせる働きです。わたしたち自身が真理を正しく理解し、そして、言葉と行いによって再びイエス様がおいでになる時が近いことを人々に伝えていきましょう。

そうすれば、結果は神様が責任を持ってくださるのですから、大いにさうしようではありませんか。

E.G. ホワイトの言葉より：

「それぞれの時代において、その時代に特に適切な現代の真理を伝えるために神に用いられる者は、すべて、反対に会わなければならない。ルターの時代には、現代の真理、すなわち、その時代において特別重要な真理があった。今日の教会のためにも現代の真理がある。みこころのままに万事を行われる神は、人々をさまざまの事情のもとにおいて、その時代、また、彼らがおかれた状態に応じた特殊な任務をお命じになる。もし彼らが、与えられた光を尊重するならば、真理に対するいっそう明らかな理解が与えられる。しかし、真理は、法王教徒たちがルターに反対したように、今日も多数の者の歓迎を受けないのである。昔と同様に、神の言葉の代わりに人間の理論や伝説を受け入れるという同じ傾向がある。この時代の真理を伝える者は、初期の改革者たちより歓迎されると期待してはならない。真理と誤謬、キリストとサタンとの間の大争闘は、この世界の歴史の終わりまで、激しさを増すのである。」大争闘上 168

「昔と同様に今日においても、時代の罪と誤りを指摘する真理を伝えることは、反対を引き起こす。『悪を行っている者はみな光を憎む。そして、そのおこないが明るみに出されるのを恐れて、光にこようとはしない』(ヨハネ 3:20)。人々は、自分たちの立場を聖書によって支持することができないのがわかると、多くの者はなんとかしてそれを支持しようと決意し、一般受けのしない真理を擁護して立つ者たちの品性や動機を、悪意をもって攻撃するのである。各時代においてとられてきたのは、この同じ方針であった。エリヤはイスラエルを悩ます者と言われ、エレミヤは裏切り者と言われ、パウロは神殿を汚す者と言われた。その当時から今日に至るまで、真理に忠誠を尽くそうとする者は、治安を妨害する者、異端者、分離者と非難されてきた。預言の確実な言葉をなかなか信じようとしぬい群衆は、その時代の罪を大胆に譴責する者への非難を、なんの疑いもなく受け入れる。この精神は、ますます増大している。そして聖書は、国家の法律が神の律法と激しく衝突するために、神のすべての戒めに従おうとする者は悪事を行う者として非難され罰せられるようになる、という時が近づきつつあることをはっきりと教えている。」大争闘下 183

「キリストは十字架にかかる少し前に、平安の遺産を弟子たちに残された。『わたしは平安をあなたがたに残して行く。わたしの平安をあなたがたに与える。わたしが与えるのは、世が与えるようなものとは異なる。あなたがたは心を騒がせるな、またおじけるな』と主は言われた(ヨハネ 14:27)。この平安は世と一致することによってくる平安ではない。キリストは悪と妥協することによって平安を買いとられたことはない。キリストが弟子たちに残されたのは、うわべの平安ではなく、心の平安であり、反目や争いの中にも絶えずキリストの証人と共にとどまるものであった。

キリストはご自身についてこう言われた、『地上に平和をもたらすために、わたしがきたと思うな。平和ではなく、つるぎを投げ込むためにきたのである』(マタイ 10:34)。平和の君、主は、なお、分裂を引き起こす者であられた。喜ばしい知らせを伝えて、人の子らの心に希望と喜びを起こさせるために来られた主は、人々の心の内奥を燃やし、激しい情熱を起こす戦いを開始された。そして主は従う者たちに警告しておられる、『あなたがたは、この世ではなやみがある』。『人々はあなたがたに手をかけて迫害をし、会堂や獄に引き渡し、わたしの名のゆえに王や総督の前にひっぱって行くであろう』。『しかし、あなたがたは両親、兄弟、親族、友人にさえ裏切られるであろう。また、あなたがたの中で殺されるものもあろう』(ヨハネ 16:33、ルカ 21:12、16)。

この預言は著しく成就した。サタンは人々の心をそのかし、イエスに従う者たちを思いつくかぎりの侮辱、非難、残酷行為に陥れた。

これは再び、著しく繰り返されるであろう。この世の心は、いまだに神の律法に敵対し、その命令に従わないからである。今日の世界は使徒の時代と同様、キリストの原則に少しも調和していない。『彼を十字架につけよ、彼を十字架につけよ』と囃(はや)し立てた同じ憎しみや、弟子たちを迫害に陥れた同じ憎しみは、今もなお、不従順な子らの心に働いている。暗黒時代に人々を牢獄や流刑や死に渡し、宗教裁判のひどい拷問を思いつき、聖バーソロミューの大虐殺を計画して執行し、またスミスフィールドの火責めをあおったその同じ精神が、改心されていない人々の心の中で、今も悪意をいだいて活発に働いている。真理の歴史は常に善悪間の闘争の記録であった。福音の宣伝は、この世で反対と危険と損失と受難に直面しながらも常に先へと伝えられてきた。

過去において、キリストのために迫害を受けてきた人々が持っていた力は何であったのか。それは、神との一致、聖霊との一致、キリストとの一致であった。多くの者は、そしりと迫害によって、地上の友から引き離されたが、キリストの愛からは引き離されていなかった。魂が、あらしに悩まされ、真理のためにそしりを受ける時ほど、救い主の愛を深く受ける時はない。『わたしもその人を愛し、その人にわたし自身をあらわすであろう』とキリストは言われた(ヨハネ 14:21)。信者が真理のためにこの地上の法廷に立つ時、キリストは彼のそばにお立ちになる。彼が牢獄の中に閉じこめられる時、キリストは彼にあらわれてその愛によって彼の心を励まされる。彼がキリストのために死刑を受ける時、救い主は、人々は肉体を殺すことができても、魂を損なうことはできないのだと、彼に言われる。『勇気を出しなさい。わたしはすでに世に勝っている』。『恐れてはならない、わたしはあなたと共にいる。驚いてはならない、わたしはあなたの神である。わたしはあなたを強くし、あなたを助け、わが勝利の右の手をもって、あなたをささえる』(ヨハネ 16:33、イザヤ 41:10)。」患難上 87

恐るべく くすしく創られた



米国シアトル在住
金城マーク N.D. 米国認証自然療法医
砂川満 訳



秋の美しい、さわやかな朝のことでした。男の子とお父さんが、広い庭園と果樹園を散歩していました。親子といえども男同士ですから、口数は少なく、緑の草を口にくわえたりしながら、静かに歩いていました。一緒にいるだけで満たされた幸福感を味わい、周りの自然を満喫していました。夏の間は、たくさんのトムロコシやトマト、メロンやリンゴ、アンズやサクランボがとれ、これらの食材が大いに食卓をにぎわせました。秋になり、いろいろどりの秋野菜の収穫が見込まれていました。カボチャ畑のそばを通ったら、大きなオレンジ色の玉が、あちこちで顔をのぞかせていました。広い地所のはずれば小

高い丘になっていて、りっぱなナラの木の森が庭園を見下ろしていました。ナラの大きな葉っぱは、赤やオレンジや黄色の色彩豊かな絵の具のパレットのようでした。自然とふたりの足は一番大きなナラの木へ向かい、その木陰に腰を下ろしました。



庭園を眺めていると、男の子がくわえていた草をプツと吐き出してから、父親に向かって、「お父さん、神様はこの世界を創られたときに、ちょっとだけ間違いをしたんじゃないかと思うんだけど」と言いました。父親はその言葉に驚きましたが、その驚きを表情に出すことなく、穏やかに尋ねました。「どうしてそんな風に思うのかね？」八歳の息子は、次のように説明し始めまし

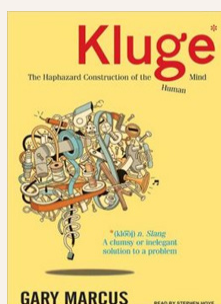
た。「だってね、お父さん、あそこのカボチャ畑のいたるところに、大きなカボチャがごろごろ転がっているでしょ？地面をはっている小さい緑のつるには、あんなに大きいカボチャがなっているのに、このりっぱなナラのの木には、小さいドングリしかないのは、ちょっとおかしいんじゃないの？僕が神様だったら、大きいナラの木に大きいカボチャをならせ、小さいつるに小さいドングリをならせるよ。僕だったら、きっとそうするんだけどな。」とっさに適切な答えを見いだせなかった父親は、「フーム」と力のない声を発しただけでした。それからしばらく、ふたりは庭園を見つめていました。

その時、そよ風が吹き始めました。すると、ナラの枝についていた小さなドングリがひとつ、風に揺られて落ちてきました。「あいたっ！」ドングリが男の子の頭に当たったので、思わず叫んでしまいました。頭をも



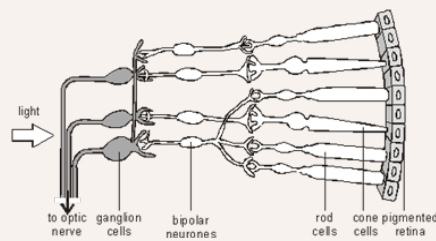
みながら、男の子は頭上の大木の枝を見上げ、とつぜん満面の笑みを浮かべて言いました。「お父さん、やっぱり神様のほうが正しいね！」

→ 十一世紀の「賢人・識者」
 → と呼ばれる人たちも、あの八歳の男の子とさほど変わりありません。彼らの多くは、人体を研究して、「創造主〔神〕などというものはいない！」と断言します。「もし我々の身体が知的存在者によって設計されたとするならば、なぜこんなにもお粗末なのか？もし私が神だったら、もっとましな仕事ができただろう」というわけです。コンピューター・テクノロジーの分野において、「クルージ[kluge]」という用語があり、今日では進化論の体系に取り入れられています。オックスフォード辞典（1989年版）によりますと、「クルージ」とは、「不釣り合いな部品を組み合わせてお粗末な全体を形成すること」となっています。「寄せ集め装置」ともいいます。この用語でもって人体を描写するのは、全くのナンセンスと言えないでしょうか。ゲーリー・マーカスという人の書いた、「クルージ：人間の頭脳のでたらめな構造」という本は、この思想の典型例といえます。



ある評論家は、この本について次のようにコメントしています。「『我々は高潔な理性

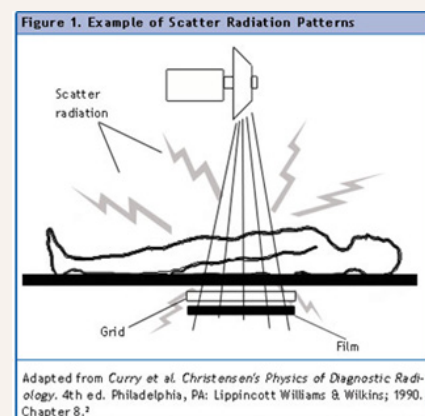
をもった、神のかたちに似る完全なものだろうか？実はほど遠い存在である』と、ニューヨーク大学の心理学者ゲーリー・マーカスは述べている。この明快で洞察に満ちた本の中で、頭脳は精密かつ優美に設計された器官ではなく、むしろ『クルージ〔寄せ集め装置〕』つまりお粗末で、不細工につきはぎされた珍奇な装置である、とマーカスは論じている。彼は、人間の頭脳に関するまったく新しい見解を打ち出している。つまり人間の頭脳は、スーパーコンピューターというよりは、ガムテープを使ってでたらめに組み立てたものであると。」



私たちの身体が「クルージ」であることを示しているように思われるもう一つの例が、目の構造であります。網膜内の光受容体は、どちらかと言えば、入ってくる光から離れた、目の奥のほうにあります。光のセンサーは、より多くの光子〔光の粒子〕にさらされ得る前方に置いたほうが、もっと理にかなっているように思われるわけです。センサーに到達するために、光は神経回路の森を通り抜けていかななくてはなりません。前方の神経回路も、それぞれの目の中の、視神経が眼球を出て行くところで盲点ができるのを余儀なくさせます。一見これは、私たちの視覚系を構築する上で、不合理なように思われます。大学時代、生物学の教授が実際にこの問題を提起し、どうしてこのような

構造になっているかの理由を、私たち生徒に尋ねたことがありました。私自身、医学校の三年生になるまでは、満足のいく答えを見つけられませんでした。

医学画像化のクラスでX線について学んでいるときに、講師の先生が、「X線撮影グリッド〔X線撮影において、多数の鉛の板によりつくられた、散乱線がX線フィルムに達するのを防ぐためのアルミニウムの薄板〕」について話しておられました。これらのグリッドと呼ばれるものは、通常鉛でできた細かい網目〔メッシュ〕で、ほとんどのX線を通しながら、散乱線を吸収するものであります。散乱線は、でたらめ〔ランダム〕の方向に飛び散っていて、X線画像がぼやける原因となります。X線が鉛の森を通るときに、直線のものだけがフィルムに到達します。ほとんどの散乱線は、鉛にぶつかって吸収されます。フィルムの手前にこのグリッドを置くことによって、多くのX線は遮断されますが、これによって、より鮮明な画像が得られるのです。この講義で、X線に敏感なフィルムの手前にこの鉛のメッシュを意図的に加えることにより、放射線技師たちは網膜の逆構造を再現しているということに気づいたのでした。





以来私は、網膜の逆構造が重要であるというその他の理由も学びました。私たちの目は、でたらめに設計されたものではなく、全知の神が、最善の方法ですべてを綿密に組み立てられたのであります。神の創造のみわざにおける優美さを十分に評価するのを妨げているのは、私たちの限られた理解力にほかなりません。

霊的な領域と同様、物質的領域においても、頭脳を最大限に用いて創造の奥義〔神秘〕を探求し、神の思いに近づこうと努めることが重要であります。使徒パウロは、「あなたは真理の言葉を正しくわきまえ、恥じる必要のない働き人として、自らが神に是認されていることを示すために研究しなさい」と勧告しています（Ⅱテモテ2：15—欽定訳）。しかし、被造物の頭脳と創造主の頭脳の間には、とてつもない隔たり、開きがあることを悟ることも、同様に重要なのです。私たちの限られた頭脳でもって、神の創造と贖（あがな）いのみわざを極めつくすことは不可能です。そのような神秘と出会うたびに、もしそれが私たちの益となるならば、神がよしとされる時に、すべてを明ら

かにしてくださると信じ、忍耐しようではありませんか。「隠れた事はわれわれの神、主に属するものである。しかし表されたことは長くわれわれとわれわれの子孫に属し、われわれにこの律法のすべての言葉を行わせるのである」（申命記29：29）。

「我々は神の作品であり、御言葉は、我々が『恐るべく、くすしく造られた』ことを宣言している。神は精神のために、この驚くべき住居をお備えになった。それは、聖霊が宿るために、主ご自身が据え付けられ、『入念につづり合わされた』宮である。」—Healthful Living(健やかな生き方)p7

「神のみかたちに造られ、神の写しとなるべく設計された人は、創造の最高傑作であった。…人は、神にとって非常にいとしい存在で

ある。なぜなら、人は神ご自身のみかたちにかたどって造られたからである。この事実が、世に神を表すために設計された身体を、食欲にふけったり、あるいは他のいかなる罪深い行為によっても汚すのは罪であることを、教訓と模範によって教えることの重要性を我々に印象づけるべきである。」Healthful Living(健やかな生き方)p8(R. and H. 1895 年)

「人体、すなわち神のみかたちに形作られた御手のくすしきわざを、人々がより十分に理解すればするほど、自分たちの身体を、精神という高い能力の支配下に置こうと求めることだろう。彼らは身体のすばらしい構造を認めるようになり、無限の設計者によって形作られ、そのお方と調和した行為を保つよう責任が与えられているという自覚を持つようになるであろう。」Healthful Living(健やかな生き方)p9



神の愛によるいやし

安息と分子生物学

—傷ついた細胞はどのように修復されるか？

Dr. サング・リー
井深光子 訳

休息という概念について説明してみます。(大きなコイルを取り出して上部をつまみ、伸びた状態にして)これは何に見えますか。これは遺伝子に似ていますね。DNAに似ているでしょう。DNAはちょうどこれとそっくりです。ご存じのように、遺伝子はDNAからできています。遺伝子が活性状態にあるとき、このように見えます。そして遺伝子が不活性の状態になると、ただ縮んで、科学的に言えば、圧縮態になります。伸びた状態は活性化状態です。科学者はこれを圧縮解除態と呼びます。遺伝子は、活性状態にも不活性状態にもなります。スイッチを切っ

たり入れたりする事ができます。科学者は実際、遺伝子の中にスイッチを見つけました。「オン」スイッチと「オフ」スイッチです。これは大変興味深いことです。科学における20世紀最大の神秘の一つは、遺伝子はどのようにしてスイッチが入り、またスイッチが切れるのかという事です。ここにスイッチがありますが、私たちにはそれがどのようにして入ったり切れたりするのか分からないのです。この集会の間にそれを見つけないものですね。

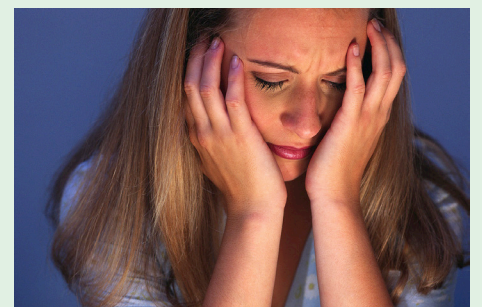
科学者たちはまた、私たちの正常な細胞は、分裂の直前に常に休むことを見つけ出しました。細胞は増殖します。細胞が休んでいるとき、増殖の備えをしているのです。それはまた、ほんとうに興味あるもう一つの発見です。休息には何か意義があるはずですね。なぜ細胞は増殖の直前に休むのでしょうか。細胞が増殖しなければ、有機体は死んでしまうはずで、有機体が何も新しい細胞を作り出さなければ、死んでいるのです。命は細胞の増殖です。

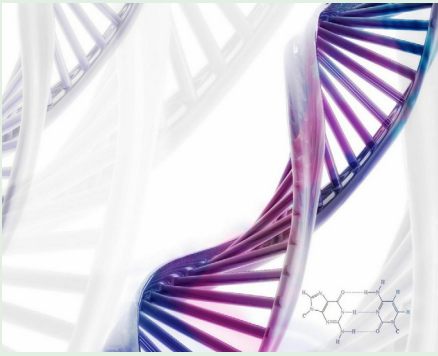
こういう新しいことも、分子生物学の視野の内にあります。分子生物学は、今日の医学における最もエキサイティングな分野です。私が医

学校にいた1960年代には、分子生物学と呼ばれる分野さえありませんでした。今分子生物学は現代医学をリードしている科学分野です。それが一層進展し、遺伝子について学べば学ぶほど、私たちは人体と健康について一層わかってきます。

遺伝子はスイッチを入れたり切ったりすることができます。そしてどのようにしてそうするのがわかると、・・・新たな希望を引き起こしてくれます。とても興味深いことです。

ところで、科学者というのは実に好奇心が旺盛です。遺伝子はどうやってスイッチを入れたり切ったりするのでしょうか。まだ、正確なメカニズムはほんとうにはわかっていません。しかし、こういう種類の現象が存在することは科学的にわかっています。





1960年代に私が医学校にいた頃、遺伝子については多くのことが分かっていませんでした。鬱病についてもあまり知りませんでした。鬱病とは何でしょうか。今日では、だれもがセロトニンのことを知っていますね。だれもがエンドルフィンを知っています。これらは脳内物質です。脳が十分なセロトニンを生成しないと、鬱病になります。脳が十分なエンドルフィンを生成しないのも問題になります。不幸な感覚を持つことになります。セロトニンは平安、鎮静、確信といった感じを与えます。脳細胞の中で十分にセロトニンが生成されないと、恐れや不安、落ち着かない、安眠できないという感じになります。それが鬱状態にある人の典型的な有様です。セロトニンを生成する遺伝子があります。幸福感を作り出すエンドルフィンを生成する遺伝子もあります。

私が医学校にいた頃、ひどい鬱状態にあった若い女性に会いました。姑は彼女を家から追い出しました。そのころの韓国では姑は、嫁が息子を生まないときには追い出す権利がありました（今ではそんなことは全くありません）。ひどい話ではありませんか。このかわいそうな女性には女の子が二人あったただけなので、追い出されたのです。問題は、夫が母親の味方についたことです。彼の妻はひどく失望しました。彼女には薬は効かず、眠れませんでした。彼女はベッドに座っているだけで、食べず、話さず、笑わず、全くひどい状態でした。彼女は死にそうになりました。ついに主任教授は、彼女に電気ショック療法をすることにしま

した。どうやって電気ショック療法をするのか、私は見たことがなかったので、彼女が電気ショック療法をする部屋に連れて行かれ、縛り付けられるのをじっと見ていました。最近、患者を縛り付けず、ある種の筋肉弛緩剤を与えるので、彼らは発作を起こしません。当時筋肉弛緩剤はなかったので、彼女を縛り付けなくてはなりませんでした。電気端子を頭の両側に取り付けました。ボタンを押すと彼女は「アアアア、ギャー！」と叫びました。すごく不規則な発作を起こして気を失いました。彼女は5、6時間眠り、徐々に目覚めてきて、食べたいと言いました。それは不思議でした。それからほほえみ、私のところにやってきて一緒に卓球をしないかと尋ねました。私はびっくりしました。そのとき私は、心理学者になってこのすばらしい機械を買い、だれでもかれでもかけてやろうと決心しました。

私は、いったい彼女の脳に何が起こったのか知りたいと思いました。電気は彼女の脳に何をしたのでしょうか。私は教授の部屋に駆け込んで行き、「先生、彼女の脳に何が起きたのですか。電気は彼女の脳に何をしたのでしょうか」と尋ねました。教授は、「わからない。ただ効き目があるんだ」と言いました。私は、「それはおかしいですよ。どういう意味ですか、ただ効き目があるとは」と言いました。彼は、「さあ、ただ効き目があるんだよ」と言いました。でも、なぜ効き目があるのかおわかりですか。電気は遺伝子を刺激し活性化させるので、彼女は急にたくさんのセロトニンとエンドルフィンを生成したのです。そういうわけで彼女は幸福になりました。言い替えば、電気ショックによって幸福にさせられたのです。

電気ショックをかけると、常にそれは脳細胞に対して過分の刺激になり、多くの脳細胞が死にます。私は彼女の急激な変化に驚きました。私は彼女と少し卓球をして遊びまし

た。彼女は幸福そうで、よく食べました。1週間ほどすると、彼女は少しばかり鬱状態になり次第に坂を下っていくようでした。3週間後、彼女は以前と全く同じ状態になりました。医者はもっと薬を与えればよくなるのではないかと考えましたが、彼女は悪くなるばかりでしたので、再び電気ショックをかけることになりました。すばらしい効き目がありましたが、それから2週間すると以前の状態に戻りました。彼女は5回にわたって電気ショックをかけられ、記憶を失いました。ついに彼女の脳細胞は、電気にはもはや反応しなくなりました。彼女は死亡しました。私は強い怒りを感じました。

遺伝子は、外部からのエネルギーに反応します。この女性のセロトニン遺伝子は抑圧されていて、電気がそれを活性化しました。わかっているのは、遺伝子はエネルギーの外部からの注入に反応するという事です。それについてもう少し考えてみましょう。彼女の鬱病に対し、電気ショックではなく最良の治療法は何があり得たでしょう。薬は効きませんでした。運動は電気療法よりはずっとましですが、鬱病の人たちは運動する気分にはなりません。他には何かないですか。

ただ一つの最良の方法は夫が電話をかけて、「お前を愛しているよ。君無しでは生きられない」と言うことではないでしょうか。そうすれば彼女はエンドルフィンとセロトニンを生成するので、幸福感を味わったことでしょう。そして、夫と共に平安に眠れることでしょう。おわかりですか。明らかに愛が遺伝子を活性化するのはです。セロトニン生成遺伝子を、またエンドルフィン生成遺伝子を。これが最良の治療法です。それは記憶を失わせるようなことは何もありません。脳細胞を殺すこともなく、脳細胞の中の遺伝子を活性化させます。科学者は、この点を証明するために非常に活気づき意気込んでいます。



科学者はいつも好奇心旺盛です。実験室でネズミやマウスを観察すると、母親がたえず自分の子供を一匹ずつなめ回しています。科学者はどうしてなのかとても好奇心を持ちました。最初、彼らは、母ネズミは赤ん坊ネズミの毛皮の汚れを取ってきれいにしようとしているのだと考えました。けれども、きれいにしなければならぬような物はないことに気がつきました。そこで母親と子供が全く同じ種類の食べ物を同じ量だけ食べるようにしておいて、子供を一掴み母親から引き離すことにしました。2, 3週間後に、母親から引き離れた子ネズミと母親と一緒にいた子ネズミとの違いを見つけました。母親になめてもらっていた子ネズミはたいへんよく成長していましたが、母親から引き離された子ネズミはあまり成長していませんでした。

ほとんどの人たちは同じ生き物が同じように食べていれば、同じように成長すると考えます。けれどもそれは違うのです。食べることで成長とは別のことです。成長のためには、成長ホルモンを十分生成しなければなりません。科学者は、赤ちゃんネズミの二つのグループの成長ホルモンを比較してみることにしました。何を発見したのでしょうか。母親ネズミから引き離された子ネズミの成長ホルモンのレベルは、非常に低かったのです。面白いことに、その子ネズミたちを母親の所に戻すと成長ホルモンが増加し早い成長をし始めたのです。さて、イエスが何とおっしゃったかご存知ですか。「人はパンだけで生きるのではない」。ネズ

ミでさえもパンだけでは生きないのです。

私たちに必要なのは何でしょうか。愛なのです。赤ちゃんネズミが母親の愛を必要とするように、私たちの遺伝子にとって神に愛されているということがどれほど必要なことでしょうか。小さなネズミにとってさえ、愛は遺伝子を活性化して、それほど大きな違いになるのです。この成長ホルモンは、それをつくる遺伝子からきます。これを成長ホルモン遺伝子と呼びましょう。母ネズミが子ネズミをなめると、成長ホルモン遺伝子は活性化します。母親から引き離されると遺伝子は抑圧されません。母親の所に戻され、またなめてもらえば回復します。

遺伝子は愛に反応し、愛は電気のようにエネルギーとして働きます。愛は特定の状況、感情の特定の状態を説明する単なる言葉ではありません。愛は力です。神の愛は私たちの遺伝子にとって力です。ですから神の愛は何ですか。命です。私たちの遺伝子は、活性化してくれる外部エネルギーがないと、命がありません。それらは死んでいき、ついに死滅してしまいます。私たちが生きているのは、神が私たちが愛して下さるからです。

別のことをお話ししましょう。遺伝子の持つ二つの異なる特性を見つけましたね。第一は、遺伝子は体外から来る電気に反応すること。第二に遺伝子は電気に反応すると全く同じく、愛に反応すること。さて、愛はエネルギーであることを知りました。それには遺伝子に作用する力があります。では、他の例を見てみましょう。

皆さんはパブロフ博士をご存じですか。彼は犬の条件反射の実験をしました。実験をした最初の日にベルを鳴らしました。すると犬に何が起きましたか。犬はその意味が分からなかったことでしょうか。何でうるさ

くしているのだらうと思ったことでしょうか。パブロフ博士は、ベルを鳴らした後に少し肉を与え、抱きしめ、撫で始めました。すると犬は、パブロフ博士がベルを鳴らすときはいつでも、自分を愛し、かまってくれていることが分かり始めました。そこで犬は、ベルの音には意味があることが分かったのですね。

1週間後に、実験は変わりました。パブロフ博士はベルを鳴らしましたが、肉も食べ物も与えず、抱くことも撫でることもしませんでした。最初の1週間、博士がベルを鳴らすと、犬は唾液を出しました。犬の唾液を出す遺伝子が活発に働いていました。最初の日、また2日目ですえ、ベルが鳴っても意味がありませんでした。犬は反応しませんでした。犬の遺伝子は反応しなかったのです。けれどもそれに特定の意味があった時には、そのベルの音が持つ意味に従って反応しましたね。犬たちはただ音に反応していたのではありません。音の持つ意味に反応していたのです。

言い換えれば、遺伝子は意味に反応すると言えます。もう少し先に進みましょう。2週目、パブロフ博士は、ベルを鳴らしても食べ物を与えるのを止めました。食べ物のない最



初の日、犬はベルの鳴るのを聞き、もちろん唾液をたっぷりと出しました。犬は食べ物をもらえるものと思ったからです。けれども何もくれなかったのがっかりしました。そういう第1日目後はベルの音の背後にある意味が弱くなりました。2日目には、犬はもう確実だとは思わなくなりました。けれどもまだ信頼したいと思いました。日毎にそれは意味をなくしていきました。二日目にパプロフ博士がベルを鳴らすと、犬は唾液を出しましたが、前の日よりは少なくなっていました。今では意味が半減していたからです。わかりですか。私たちの遺伝子は意味、反応の効力に反応するのです。3日目、犬はまだ唾液を出しましたが、ほんの少しでした。どうしてですか。3日続きの失望で犬は非常に疑い深くなりました。4日目、犬は言いました「あっちへ行け」。そして5日目、犬は、「ウウー」とうなりました。生きている物は皆、無意味を嫌います。どうしてですか。私たちの遺伝子は意味を愛するからです。無意味は命のないことを意味します。ほんとうです。生活の中に意味があるということが、生きることをすばらしくします。

私たちの遺伝子は愛と意味に対して反応するのです。意味はとても大切です。

ご存知のように、私たちの生活の中には「真実」と「事実」と呼ばれることがあります。ところでこれは私にとって、とても興味ある新しい啓示です。今日、人々は「真実」と「事実」を混同しています。私は、真実は事実であり、事実は真実であると思っていました。しかし事実と真実は全く同じではないことに気がつきました。大きな違いがあるのです。二つを比べてみましょう。

ある女性と男性が深く愛し合っ、結婚しました。この新郎、花婿はとても幸福でした。そしてハネムーンの最初の朝、彼は言いました。

「君、君は僕の妻だ！ワオ！」何と意味ある言葉でしょう。「君は僕の妻だ！」。その瞬間、それはとても意味があります、そうですね。忘れられない瞬間です。彼らは愛し合っている、それはすばらしい瞬間です。30年後、残念なことに愛は消えました。ある日夫が言います、「君、君は僕の妻だ」。すると彼女は言います、「それが何なの」。突然、愛が消えたので意味がなくなりました、美もなくなりました。

愛は意味と美を創り出します。愛が消えると、美は跡形もなくなります。意味もなくなります。これを基本に、細胞について説明したいことがあります。

私たちの体には、生物的サイクルがあります。科学者はこれを24時間サイクル、概日リズムと呼びます。そして一般にはこれを生体リズムと呼びます。生体リズムは遺伝子の活動、細胞の活動によって起こります。細胞はいつもは日中活動します。太陽が昇ると、細胞は活発になってきて、日中、最も活発になります。午後、遺伝子の活動は徐々にゆるやかになってきて、日没後や夜間は、細胞はたいてい休息をとる傾向があります。私たちの細胞はこの24時間サイクルの中で休むのです。ということは、もし皆さんが自分の細胞、又は遺伝子に夜間休みたいたいに休ませなければ、問題が起こるということです。そこにガンとの関係がいくらかあります。私はガンに関して調べてみて、体内の細胞は生体リズムに従って休むことができないと喜ばないことがわかりました。正常な細胞は生体リズムに従って休みますが、ガン細胞は生体リズムをなくして、いつでも働いています。ガン細胞には昼も夜も休みがありません。言い替えれば、ガン細胞は休む能力をなくしているのです。これは非常に興味あることです。

メリーランドのベセスダにある国立ガン研究所の科学者の一人は、正



常細胞に比べてガン細胞はどれほど強いのかを知りたいと思いました。当時、科学者は、ガン細胞は正常細胞よりもはるかに強いと思っていました。どうしてでしょうか。ガン患者の中ではたいてい、ガン細胞が実際に広がって行き、正常細胞は攻撃に手も足も出ないからです。この科学者はガン細胞がどれほど強力に正常な細胞に影響を与えるのかをみたいと思いました。彼は実験室でガン細胞と正常細胞を一緒に同じ試験管に入れて数えました。2、3日後、正常細胞は全部ガン細胞になっているものと思いました。するとどうでしょう。期待とは逆に、ガン細胞が全部正常細胞になっていました。面白いではありませんか。そういうわけで、ガンの治癒が時に起こるので。

この研究中彼らは、休むことのできる正常細胞が、ガン細胞を休ませることのできるようにさせる非常に興味深い化学物質を生成することを見つけました。休むことは、正常細胞によって生成されるある種の化学物質によるのです。科学者たちは、この化学物質がガン細胞を正常細胞に戻らせることから、この化学物質を反ガン因子と名付けました。この反ガン因子は明らかに正常細胞から出てくるのです。これは、正常細胞は反ガン因子を生成する遺伝子を持っているはずだということです。

その遺伝子はp-53です。この遺伝子は反ガン因子という特殊な物質を生成します。神は私たちが必要とするものをすべて備えておられます。科学者たちは、正常な細胞はこのp-53が活動しており、ガン細胞にはこの遺伝子がなくなっていることを見つけました。そういうわけで、ガン細胞はこの反ガン因子を生成しないので、ガン細胞になるのです。このp-53遺伝子は反ガン因子を生成することでどうするのでしょうか。細胞を休ませるのです。正常細胞の中のこのp-53遺伝子は休息因子を生成し、ガン細胞がこの休息因子を吸収し、休み、それから正常細胞になります。興味深いではないですか。休息は何をするのでしょうか。

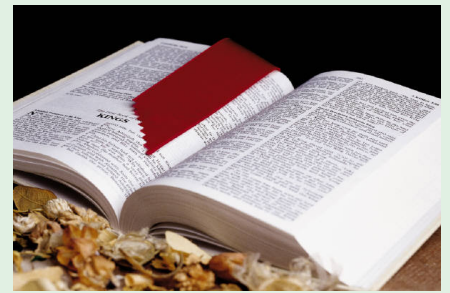
皆さんは、ガン細胞とは何なのかを理解しなければなりません。ガン細胞と正常細胞との違いは何ですか。遺伝子の違いがあります。私たちは以前にはガンのことがよくわかっていませんでしたが、今ではガンのことを良く理解しています。正常細胞が休むことができるわけは、それらにはp-53遺伝子があるからです。ガン細胞は休むことができない、その意味はガン細胞のp-53遺伝子は消えてしまったか、壊れているということです。それで、もしガン細胞にp-53遺伝子があっても、たいていそれは壊れています。ですからうまく働いていません。今日の科学者は、ガンが遺伝子の変容によって起こることを知っています。遺伝子が傷ついたら、その遺伝子は修復されなければなりません。さて、この事を考えてみて下さい。正常遺伝子も傷つきます。人々は煙草を吸います。これには、細胞に入って遺伝子を傷つける多量の発ガン物質があります。けれども、煙草を吸う人が皆肺ガンになるわけではありません。どうしてでしょうか。タバコの煙によって入ってくる発ガン物質は遺伝子を傷つけますが、たいていその傷は修復されるからです。

そうです、科学者は遺伝子が修復

されることを見つけました。遺伝子はストレスのたくさんある状況下ではあまりうまく修復されませんが、人或いは動物が愛を受けると、非常にうまく修復されます。たいへん興味深いことです。この事はもっともっと面白くなってきます。8つの健康原則を実行している間に、私たちは多くのガン患者たちが愛を受けたことにより、また、遺伝子は愛と意味に対しどのように反応するかを理解することにより、遺伝子が正常に戻ったのを経験しました。神の言葉の意味を理解することによってです。聖霊が彼らの目を開くと、神が自分を愛しておられることに気がつきます。それは大きな衝撃です。

私はこれを衝撃と呼びます。なぜなら、人々は失望しているとき、その失望は人工的な強い刺激で一時的に緩和されることがあるからです。聖書は「非常に刺激的」な書物です。大いに啓発させられます。そうではありませんか。それにすばらしい本です。聖書は啓発するものだとなると、この聖書、神の言葉は皆さんの体、皆さんの遺伝子に対して非常にすばらしいものになります。遺伝子は脳もコントロールします。ですから、神の言葉は心身の両方にとって、たいへんすばらしいものです。

さて、この大切な遺伝子、p-53遺伝子は大変有名な遺伝子であることがわかりました。これは1987年に発見され、1996年以来多くの注目を受けています。今では、p-53遺伝子についてたくさんの方がわかっています。私はこれを、反ガン因子と呼びたくありません。休息因子と呼びたいのです。しかしそれから、このp-53遺伝子を安息日遺伝子と呼ぶのはどうだかと気がつきました。きっとこの遺伝子は、安息日を守ることと関係があります。いっそうわくわくしてきます。それから私は、正常な細胞が増殖するたびに先ず休まなければならないこと、その後分裂することに気がつきました。正常な細胞があります。核があり、



染色体遺伝子があります。そして、これらは休まなければなりません。休むと何が起こるかわかりますか。染色体は非常にたくさんの遺伝子からできていますね。これは染色体を形成するところです。しかし細胞が休んでいるとき、染色体はちょうど女性が髪の毛を整えるときのようにほどこけています。普段、ヘアスタイルを決めている女性でも、休日になると、先ず髪をほどこいて新しく整直すために洗います。すると、傷んだ所が直されます。それはまるで、愛という見えない手でなされているような修復です。遺伝子の「オン」スイッチを活性化させるのは、愛と呼ばれる、見えない手の様なものです。それが終わると、細胞は正常な形状に戻り、それからその細胞は分裂し、二つの別々の細胞になります。修復してもらえるように、いつも休むのです。

私たちを創造された神は、命を支える最善の方法を知っておられます。それを私たちは8つの健康原則と呼んでいます。

- 正しい食事
- 適度な運動
- 水の利用（十分飲むこと、洗う、温める、冷やす）
- 日光をほどこよく浴びる
- 節制（心身に不必要な刺激を与えない、また負担をかけない）
- 新鮮な空気を十分に取り入れる
- 休息（疲労を蓄積しない）
- 信頼（不安や恐怖からの解放）

これらの8つの原則は、健康維持、病気の予防、治療のいずれにも生かすことができます。

まんが“4つの確かな大事実”

メッセージ：金城重博
まんが：崎浜佑紀

人は変わり世は移る！
しかし、変わらない大事実が四つある！

1. 人は一度は必ず死ぬ
2. 死んで後必ず裁きを受ける
3. すべての人のためにイエス・キリストが一度だけ十字架にかかられた
4. イエス・キリストがこの世に再び来られる



A5, 63ページ 200円

わが波乱万丈の人生

Dr. ウォルター・ファイト

進化論者から創造論者になったDr ウォルター・ファイトの個人的証。ファイト教授は、南アフリカ、ケープタウン大学で動物学者、比較生理学者としての研究をし、現在講演者、著者として世界的に活躍。長年、進化論を教えてきた彼が、多くの人の心に、神の驚くべき導きを証する。



A5, 38ページ 無料

2013年春セミナー収録集

デイビッド・カン/ソン・ケムン/金城重博

Disc.1~5 埼玉講演

- 講義1「獣の像」デイビッド・カン
講義2「アドベンチストはどこからどこへ」金城重博
講義3「144,000人」デイビッド・カン
講義4「聖なるチャレンジ/パワフルヴィジョン」ソン・ケムン
講義5「生ける石なるキリスト」デイビッド・カン
講義6「神のみ業の完成計画」デイビッド・カン
講義7「再臨を待ち望んでおられますか？」ソン・ケムン
講義8「救いの力」デイビッド・カン
講義9「サタンが憎む大真理」金城重博
講義10「質疑応答」デイビッド・カン

Disc.6~10 沖縄講演

- 講義1「翼を広げなさい」ソン・ケムン (1:15:53)
講義2「神の友」デイビッド・カン (1:22:21)
講義3「後の雨の聖霊を受けるための4つの条件」ソン・ケムン (1:12:00)
講義4「日は延び幻はむなし」金城重博 (1:09:08)
講義5「神の火」デイビッド・カン (1:37:14)
講義6「仲保者なしに」金城重博 (1:01:04)
講義7「今悔い改めなければならぬ」ソン・ケムン (1:12:45)
講義8「霊的な心」デイビッド・カン (1:31:40)
講義9「救いの方程式」金城重博 (1:15:08)



DVD(10枚)：3,000円
埼玉講演CD(10枚)：3,000円
沖縄講演CD(17枚)：3,000円
埼玉講演MP3(2枚)：800円
沖縄講演MP3(2枚)：800円

地上歴史の最後

一警告と希望のメッセージ

デイビッド・カン

Disc.1

「三つの災い」
「偽福音の欺瞞を暴露する」

Disc.2

「獣の刻印」



DVD(2枚)：700円

主とともに

一羽のすずめ／み
恵み豊けき／カルバ
リーメドレー／わたし
の心／救いの鐘／他



全10曲
CD：300円

歌：Kinjo Family

編曲・ピアノ：金城瑠璃子

SUNRISE MINISTRY
サンライズ ミニストリー 刊行誌

Anchor

アンカーNo.51
発行人 金城 重博

〒905-0428
沖縄県国頭郡今帰仁村今泊1471
E-mail: contact@srministry.com
郵便振込番号：02080-0-12121
サンライズミニストリー

www.srministry.com

TEL (0980) 56-2783

FAX (0980) 56-2881

「アンカー」：目的と編集指針

私たちは次のことを信じてアンカーを出版しています。

1. 我々SDAの働きと使命は三天使の使命である。(6T 384, 2SM 142)
2. 三天使の使命は人々をキリスト再臨に備える特別な最後の使命である。(9T 98, 大争闘下 140)
3. 三天使の使命は人々の心を至聖所に向ける。そこにおいて信者は最後の、特別な贖い清めを受ける。(初代文集 414, 5,7)
4. 我々は神のご計画されたこの特

別な祝福、特別な経験を拒み続けてきた。特に1888年以来(RH26, 1890年)

5. ダニエル書8:14の聖句は再臨信仰の土台であり、み業の完成はこの聖句の正しい理解にかかっている。(生き残る人々 422, EV 221, 5T 575)
6. エレン・G・ホワイトは聖書の預言者と同様の靈感が与えられた預言者である。(1SM 36)
7. 最後の時代の嵐に押し流されないようにさせるアンカー(錨)は、三重の使命、聖所、安息日、人の性

質、イエスの証(預言の霊)等である。(黙12:17, 19:10,22, 初代文集417, 1T 300)

8. アンカーはリレーの最終走者の意味もある。この世代は福音の働きが信者の中に、外の世界に完成する最後の時代である。不信仰によって、150年も時が延ばされ、イエスの十字架の苦しみを増している。(大争闘下 182, 教育 328) 信仰による義認の体験によって、再臨を早めることをキリストは待っておられる。再臨とみ業完成をこれほど遅らせているのが我々神の民であるとするならば、我々の今

日の、義務は何か、約束のものを受ける条件は何なのかを研究し、共に備えたい。

9. セブンスデー・アドベンチストは最後の「残りの民」である。たとい教会がどんなに背教しようとも、近い将来、「最後の試練」(黙13章)が来る時、多くの者がふるわれ、代わりに諸教会から真実な多くの者が出てきて最後の純潔な「女の残りの子ら=レムナント」を構成し(黙18章)、永遠の福音宣伝は短期間に終わると信じる。激しいふるいの経験をして、純潔な教会となり、永遠の神の目的がこの教会によって達成されると信じている。

長寿を超えて

— 神の計画される豊かな生き方 — *Beyond Longevity*



入場無料



講師：金城マークN.D.

米国在住。沖縄出身の米国認証自然療法医。米国において色々な団体で健康講話をしている。特にアルツハイマー病、健康で価値のある人生を送るための秘訣を研究、教えている。

主催 サンライズミニストリー 沖縄県国頭郡今帰仁村今泊1471
E-MAIL contact@srministry.com www.srministry.com
TEL 0980-56-2783 | 当日連絡先 080-6454-4896 | FAX 0980-56-2881

浦添市産業振興センター
結の街 3階 大研修室

場所

2013年 8月31日 (土)

昼の部 9:30~17:00

夜の部 18:20~20:00

日時

9月1日 (日)

18:20~20:00

スケジュール

8月31日 (土)

- 9:15~10:50 真の長寿の秘訣
- 11:00~12:15 神の戦いの計画
- 14:00~15:15 音楽の集い
- 15:30~17:00 心臓病に打ち勝つ神の計画
- 18:20~20:00 認知症に打ち勝つ神の計画

9月1日 (日)

- 18:20~20:00 がんを打ち勝つ神の計画

※講義内容は都合により変更する場合があります。ご了承ください。

サンライズミニストリーにて追加講演をいたします。ぜひお越しください。

9月4日 (水)

- 18:20~20:00 糖尿病に打ち勝つ神の計画

9月7日 (土)

- 9:15~10:50 良きアドベンチストに仕掛けられているサタンを救われる為に私は何をすべきか?
- 11:00~12:15 肥満に打ち勝つ神の計画
- 15:30~17:00 自己免疫疾患に打ち勝つ神の計画
- 18:20~20:00 質疑応答